

「大地震への県民一人一人の備えについて」

埼玉県危機管理防災部危機管理課

1 調査の概要

(1) 調査目的

マグニチュード7クラスの首都直下地震は今後 30 年以内に 70%の確率で発生し、最新の埼玉県被害想定調査結果では、県南東部の 11 市区に最大震度 6 強の揺れが発生すると想定されている。大地震の発生を防ぐことはできないが、被害を最小化するために、埼玉県では県民の自助の取組の更なる推進をしている。

こうした減災に向けた自助の取組では、県民一人一人が災害発生前に「日ごろから備える」ことが基本である。そのため本県では「命を守る3つの自助の取組」として、「①家具の固定」「②災害用伝言サービスの体験」「③3日分以上の水・食料の備蓄」の実施率を上げるための事業を展開している。

このアンケート調査では、埼玉県民の自助の取組の実施状況等を把握し、今後の地震防災に係る施策の参考とする。

《命を守る3つの自助の取組（HP: <http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/index.html>）》

災害対応は、まずは『自分の命は自分で守る』ことが重要です。大地震が起きた瞬間に命を守るには①家具の固定が不可欠です。また災害発生直後の家族との安否確認方法として②災害用伝言サービスをあらかじめ家族で体験しておく心安心です。さらに、ライフラインや物流が途絶えることも想定し、③3日分以上の水・食料の備蓄をしておきましょう。

(2) 調査内容

- ア. 地震防災全般について（問 1～4）
- イ. 家具類の固定について（問 5～9）
- ウ. 3日分以上の水・食料の備蓄について（問 10～17）
- エ. 災害用伝言サービスの体験利用について（問 18～21）

(3) 調査実施概要

ア. 調査対象

県内在住の県政サポーター：2,873 人（平成 26 年 10 月 1 日現在登録者）

※全サポーター3,376 人を対象に調査をしましたが、本結果は県内在住者を抽出して集計したものです。
（全体の調査結果は「サポーターアンケート」HPにて公表）

イ. 調査時期

平成 26 年 10 月 16 日（木）～27 日（月）

ウ. 調査方法

インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

エ. 回収結果

回収率 70.8%（有効回収数 2,035 人）

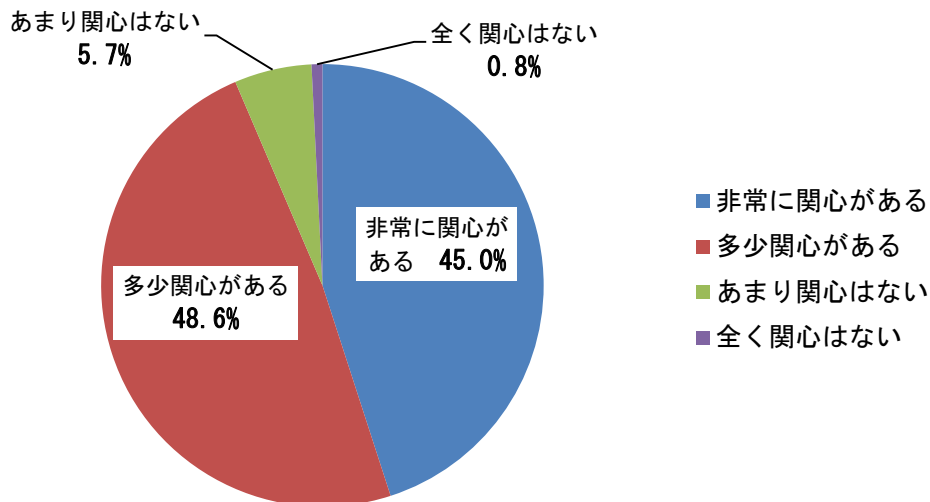
属性	No.	内容	回答者数	比率
全体			2,035	100.0%
性別	1	男性	1,186	58.3%
	2	女性	849	41.7%
年齢層	1	16～19歳	3	0.1%
	2	20～29歳	90	4.4%
	3	30～39歳	316	15.5%
	4	40～49歳	519	25.5%
	5	50～59歳	414	20.3%
	6	60～69歳	381	18.7%
	7	70歳以上	312	15.3%
職業	1	個人事業主・会社経営者（役員）	186	9.1%
	2	家族従業（家業手伝い）	16	0.8%
	3	勤め（全日・パートタイム）	990	48.6%
	4	専業主婦・主夫	371	18.2%
	5	学生	24	1.2%
	6	その他、無職	448	22.0%
同居の家族の人数	1	1人	121	5.9%
	2	2人	696	34.2%
	3	3人	514	25.3%
	4	4人	464	22.8%
	5	5人以上	240	11.8%
住宅の所有形態	1	持ち家	1,759	86.4%
	2	賃貸住宅	276	13.6%
居住形態	1	一戸建て	1,399	68.7%
	2	マンション・アパート（居住階数：1～5階）	396	19.5%
	3	マンション・アパート（居住階数：6～9階）	122	6.0%
	4	マンション・アパート（居住階数：10階以上）	118	5.8%
住宅の構造	1	木造	1,250	61.4%
	2	非木造（コンクリート造など）	785	38.6%

（４）調査結果の見方

- ア. 設問中の（ ）内の数字及びグラフの中の数字は、回答比率（％）です。
- イ. 回答比率（％）は小数点以下第2位を四捨五入したため、個々の比率の合計は、100%にならないことがあります。
- ウ. グラフの中で「n」とあるのは、その質問の回答者の総数を示し、回答比率は「n」を基数として算出しています。
- エ. 複数回答の質問については、その回答比率の合計は、100%を超える場合があります。
- オ. 複数回答 「M.T.」とあるのは、複数回答における回答数の合計を示す。

2 調査結果

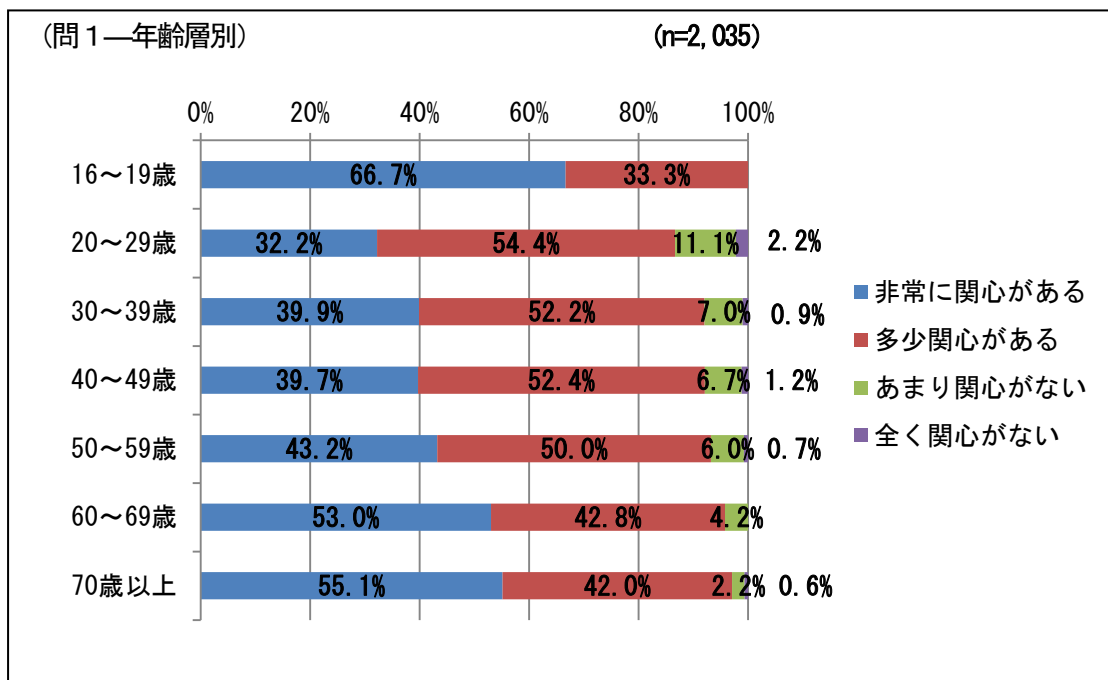
問1. あなたは現在、首都直下地震をはじめとした大地震への備えにどの程度関心を持っていますか。
(n=2,035)



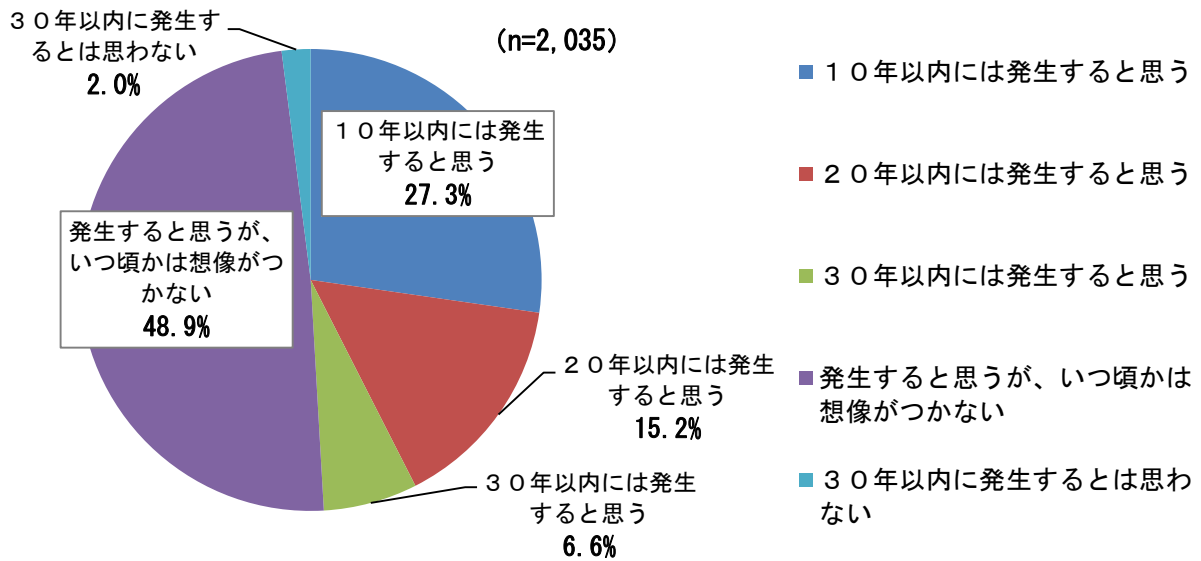
首都直下地震をはじめとした大地震への備えにどの程度関心を持っているかを尋ねたところ、「非常に関心がある」(45.0%)と「多少関心がある」(48.6%)を合わせた『関心がある(計)』が93.6%であった。

性別で見ると、『男性』は「非常に関心がある」(48.0%)、『女性』は「多少関心がある」(52.7%)が最も高い。

年齢層別で見ると、「非常に関心がある」については『20歳代』では32.2%、『70歳以上』では55.1%となり、年齢層が上がるほど、関心の度合いが高まる傾向にある。

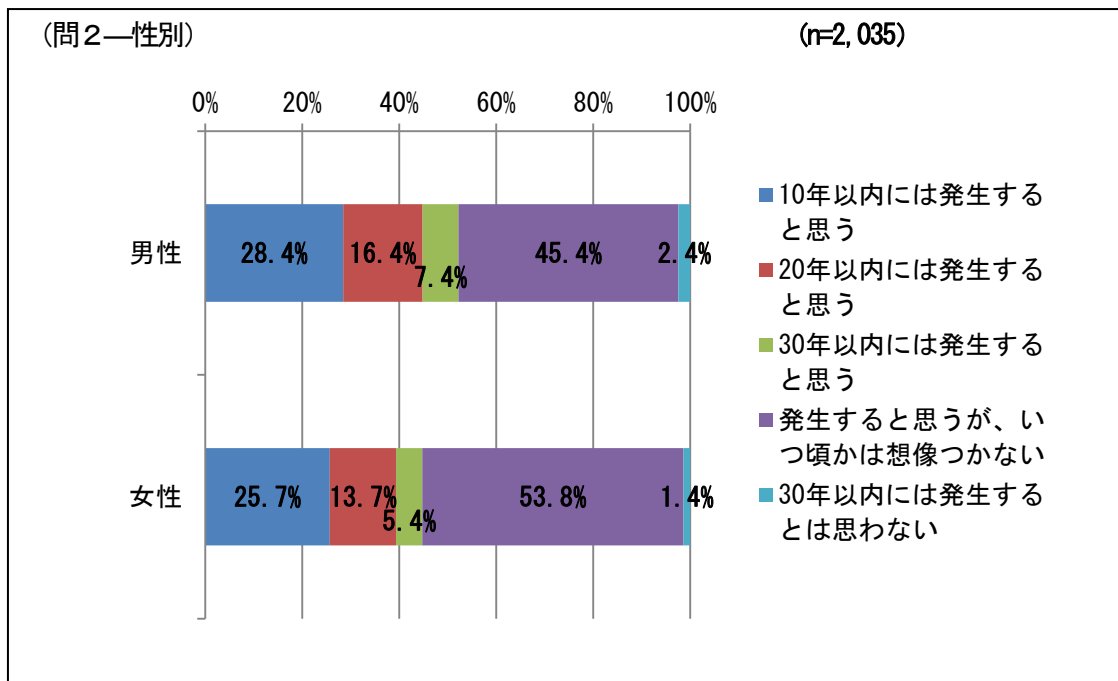


問2. 今後30年以内に70%の確率で発生するとされるマグニチュード7クラス（県内は最大震度6強以上）の首都直下地震について、あなたはどれくらいの危機感を持っていますか。



今後30年以内に70%の確率で発生するとされるマグニチュード7クラス（県内は最大震度6強以上）の首都直下地震について、どれくらいの危機感を持っているか尋ねたところ、「発生すると思うが、いつ頃は想像がつかない」が最も多く(48.9%)、次いで「10年以内には発生すると思う」が27.3%であった。

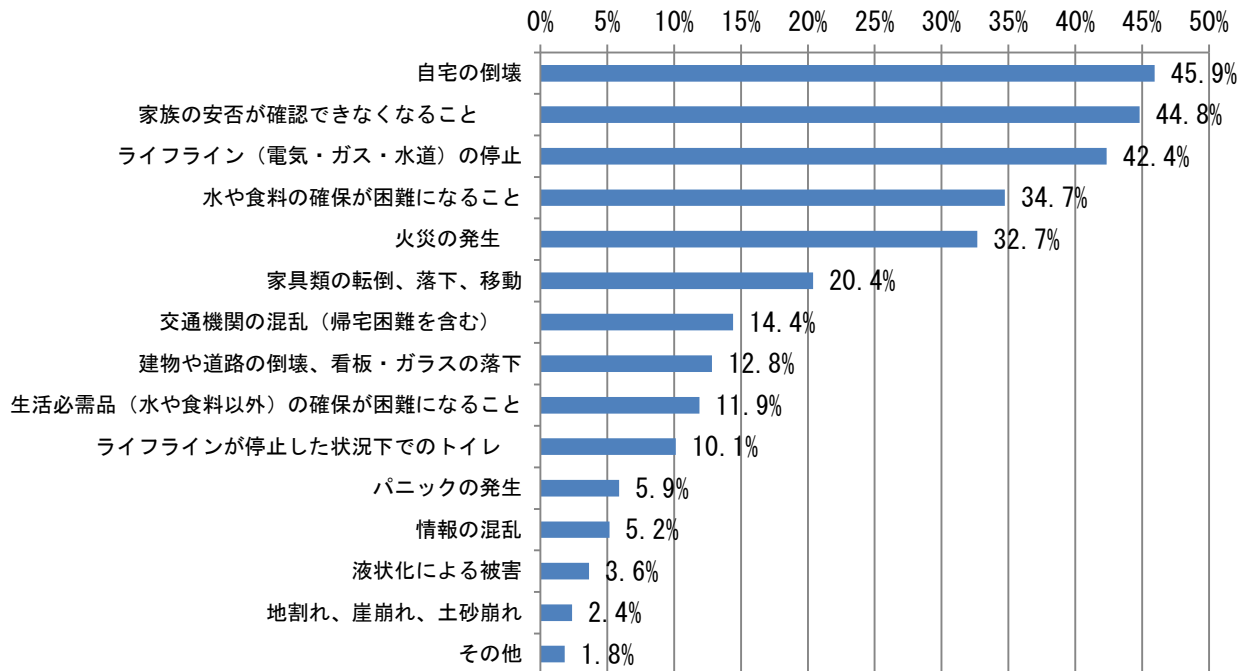
性別で見ると、「発生すると思うが、いつ頃は想像がつかない」は『女性』(53.8%)の方が『男性』(45.4%)より8.4ポイント高い。



年齢別で見ると、大きな差異は特に見られない。

問3. あなたは、首都直下地震をはじめとした大地震が発生した場合、どのようなことが心配ですか。
(3つまで)

(n=2,035, M. T.=5,882)



首都直下地震をはじめとした大地震が発生した場合、どのようなことが不安が尋ねたところ、「自宅の倒壊」(45.9%)が最も高く、以下、「家族の安否が確認できなくなる」(44.8%)、「ライフライン（電気・ガス・水道）の停止」(42.4%)などの順となっている。

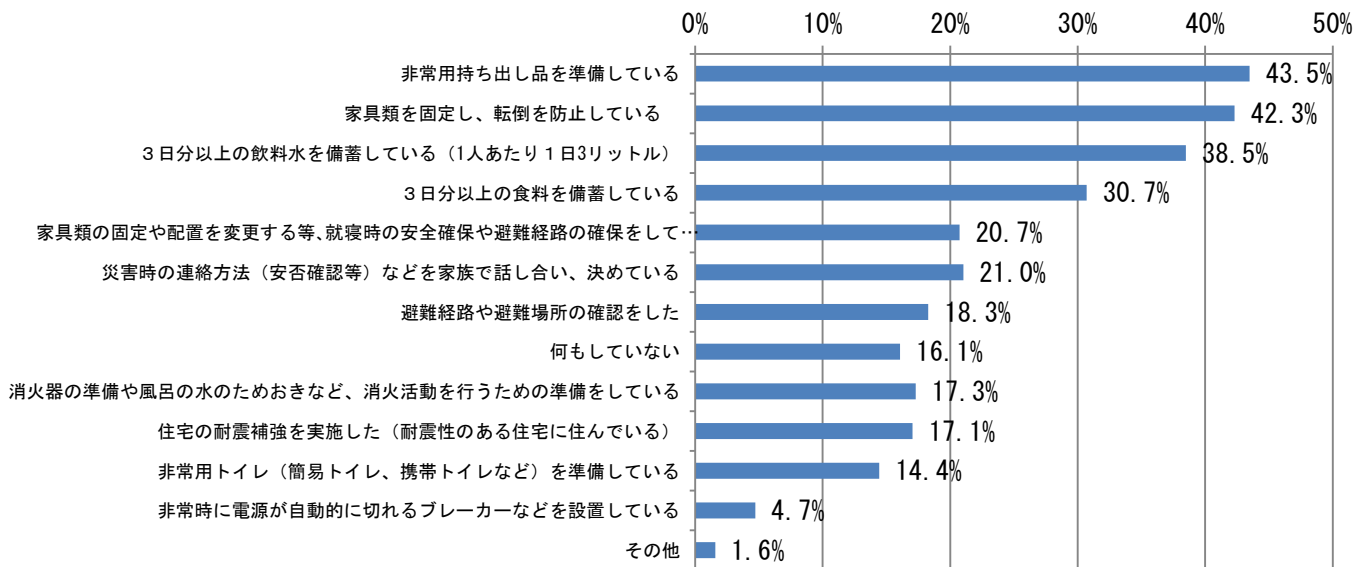
年齢層別で見ると、『20歳代』は「自宅の倒壊」が57.8%と他の年齢層と比べても割合が高く、また、『30歳代』及び『40歳代』は「家族の安否が確認できなくなる」を半数以上（30歳代は53.5%、40歳代は52.0%）が挙げている。『60歳代』及び『70歳以上』は「ライフラインの停止」を半数近く（60歳代は50.4%、70歳以上は49.4%）が挙げている。

(問3—年齢層別)

問3. 首都直下地震発生時の心配事項	(n=2,035)							
	(n=3)	(n=90)	(n=316)	(n=519)	(n=414)	(n=381)	(n=312)	(n=2,035)
	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	全体の割合
1 自宅の倒壊	0.0%	57.8%	45.6%	43.0%	44.9%	41.7%	54.8%	45.9%
7 家族の安否が確認できなくなる	0.0%	43.3%	53.5%	52.0%	46.6%	39.4%	29.2%	44.8%
11 ライフライン（電気・ガス・水道）の停止	66.7%	26.7%	34.5%	38.0%	44.4%	50.4%	49.4%	42.4%
9 水や食料の確保が困難になる	66.7%	23.3%	39.6%	38.7%	31.9%	30.4%	35.3%	34.7%
5 火災の発生	33.3%	23.3%	26.6%	27.7%	33.3%	39.6%	40.4%	32.7%
2 家具類の転倒、落下、移動	33.3%	24.4%	20.6%	16.6%	20.5%	22.0%	23.1%	20.4%
8 交通機関の混乱（帰宅困難を含む）	33.3%	17.8%	15.5%	20.8%	15.2%	9.7%	6.1%	14.4%
3 建物や道路の倒壊、看板・ガラスの落下	0.0%	12.2%	10.8%	9.6%	10.6%	16.8%	18.6%	12.8%
10 生活必需品（水や食料以外）の確保が困難になる	66.7%	13.3%	16.1%	11.9%	11.4%	11.3%	8.0%	11.9%
12 ライフラインが停止した状況下でのトイレ	0.0%	8.9%	7.6%	12.9%	8.5%	11.0%	9.6%	10.1%
13 パニックの発生	0.0%	13.3%	6.0%	5.2%	6.0%	4.5%	6.4%	5.9%
14 情報の混乱	0.0%	6.7%	3.5%	5.2%	4.6%	6.8%	5.1%	5.2%
4 液状化による被害	0.0%	3.3%	2.2%	3.3%	3.4%	4.5%	5.1%	3.6%
6 地割れ、崖崩れ、土砂崩れ	0.0%	2.2%	1.9%	1.9%	3.1%	2.4%	2.6%	2.4%
15 その他	0.0%	1.1%	2.2%	1.7%	1.9%	2.9%	0.3%	1.8%

問4. 大地震に備えて、あなたの家庭ではどのようなことを実施していますか。(いくつかでも)

(n=2,035, M.T.=5,824)



大地震に備えて、家庭でどのようなことを実施しているか尋ねたところ、「非常持ち出し品(水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等)を準備している」(43.5%)が最も高く、以下、「家具類を固定し、転倒を防止している」(42.3%)などの順となっている。

なお、「問3. 大地震が発生した場合に心配なこと」において高い割合を示した「自宅の倒壊(45.9%)」「家族の安否が確認できなくなること(44.8%)」に対する対策(問4「住宅の耐震補強を実施した(17.1%)」「災害時の連絡方法(安否確認等)を家族で話し合い、決めている(21.0%)」は、必ずしも取組実施率が高いとは言えない。

(問4—年齢層別)

問4. 大地震に備えて、どのようなことを実施しているか	(n=3)	(n=90)	(n=316)	(n=519)	(n=414)	(n=381)	(n=312)	(n=2,035)
	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	全体の割合
7 非常用持ち出し品を準備している	66.7%	31.1%	40.8%	40.5%	40.1%	46.2%	55.8%	43.5%
1 家具類を固定し、転倒を防止している	66.7%	26.7%	32.9%	42.0%	41.3%	49.3%	49.4%	42.3%
4 3日以上の飲料水を備蓄している(1人あたり1日3リットル)	33.3%	24.4%	27.5%	34.9%	39.6%	49.1%	45.2%	38.5%
5 3日以上の食料を備蓄している	33.3%	15.6%	19.3%	29.1%	29.2%	39.1%	41.0%	30.7%
6 災害時の連絡方法(安否確認等)などを家族で話し合い、決めている	33.3%	14.4%	18.0%	21.4%	18.4%	24.7%	24.4%	21.0%
2 家具類の固定や配置を変更するなど、就寝時の安全確保や避難経路の確保をしている	33.3%	12.2%	19.0%	21.2%	16.2%	22.0%	28.5%	20.7%
9 避難経路や避難場所の確認をした	33.3%	11.1%	13.6%	18.1%	15.5%	22.6%	23.7%	18.3%
11 消火器の準備や風呂の水のためおきなど、消火活動を行うための準備をしている	33.3%	4.4%	9.2%	14.5%	15.0%	27.3%	24.7%	17.3%
3 住宅の耐震補強を実施した(耐震性のある住宅に住んでいる)	100.0%	5.6%	12.3%	17.1%	15.2%	20.7%	22.1%	17.1%
12 何もしていない	0.0%	24.4%	23.7%	16.0%	17.4%	11.3%	10.3%	16.1%
8 非常用トイレ(簡易トイレ、携帯トイレなど)を準備している	33.3%	3.3%	14.6%	17.1%	12.8%	13.6%	16.0%	14.4%
10 非常時に電源が自動的に切れるブレーカーなどを設置している	0.0%	1.1%	2.5%	2.7%	2.4%	8.7%	9.6%	4.7%
13 その他	0.0%	1.1%	0.9%	1.5%	1.2%	2.4%	1.9%	1.6%

【参考—（問4）3つの自助の取組に関する分析（家具の固定）】

※飲料水及び食料の備蓄率については、問10(食料品)、問15(飲料水)の数値結果を現状把握に用いる。

○性別

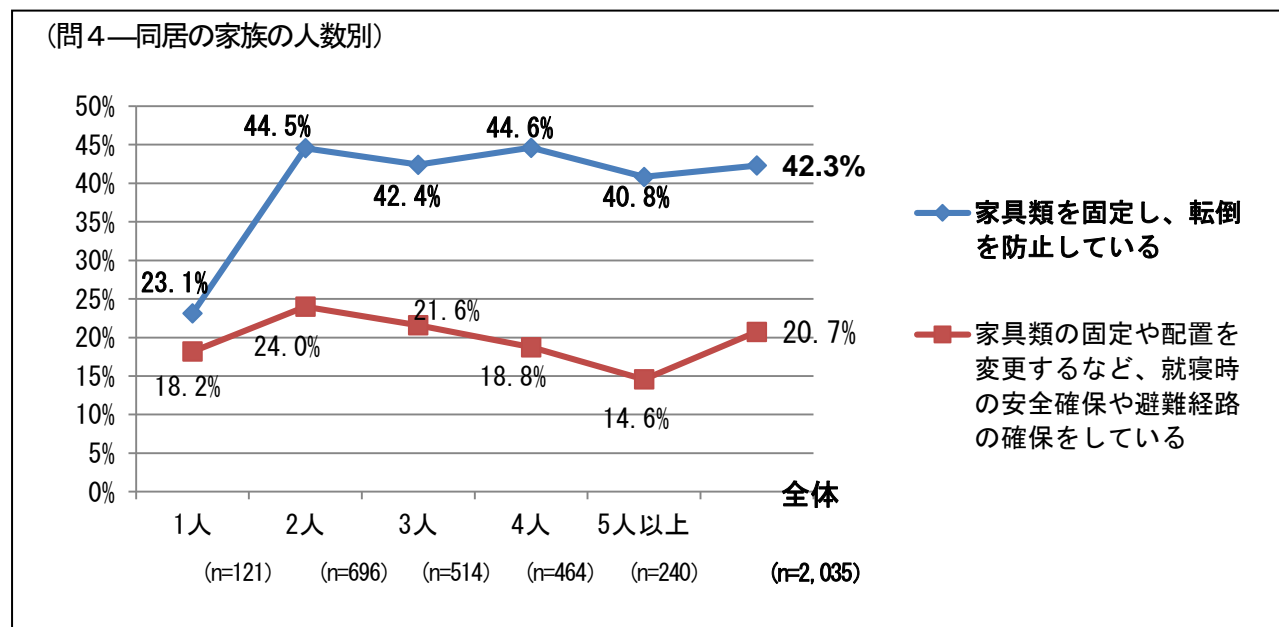
「家具類を固定し、転倒を防止している」を性別で見ると、『男性』は42.7%、『女性』は41.7%の実施率であり、大きな差はない。

○年齢層別

「家具類を固定し、転倒を防止している」を年齢層別で見ると、『20歳代』は26.7%、『70歳以上』は49.4%の実施率であり、22.7ポイントの差が見られる。（問4—年齢層別）

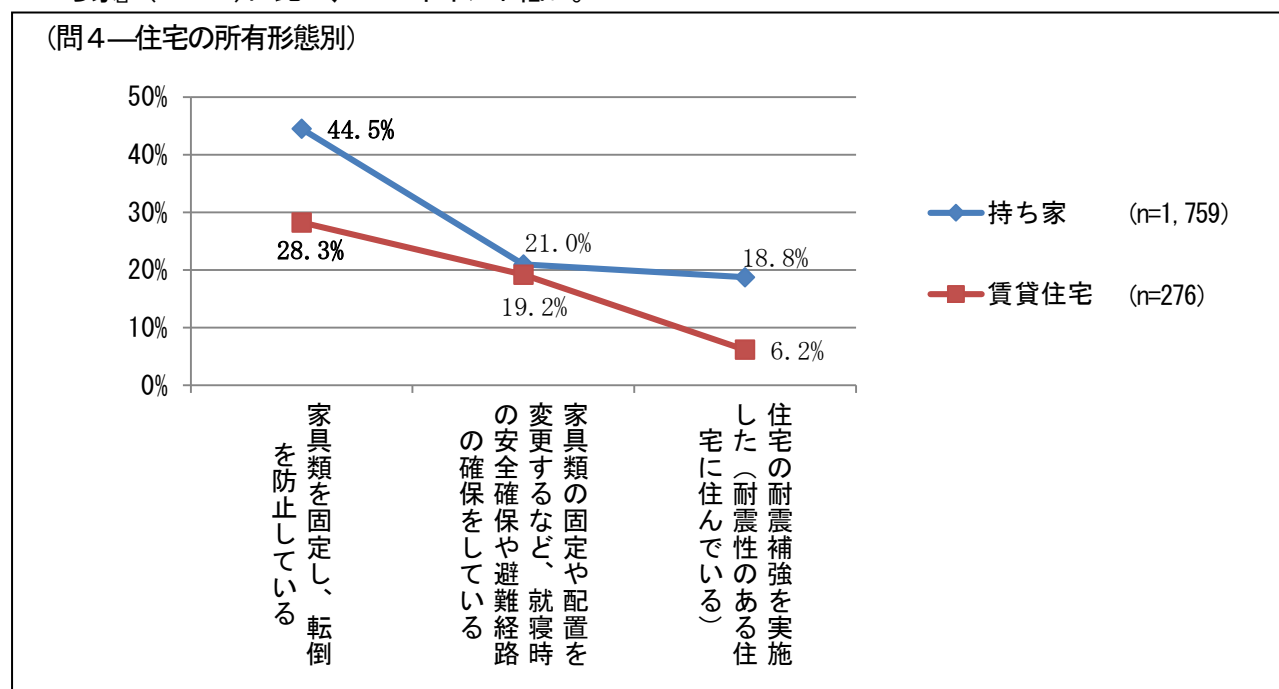
○同居の家族の人数別

・「家具類を固定し、転倒防止をしている」を同居の家族人数別で見ると、『1人(単身世帯)』(23.1%)は平均(42.3%)に比べ、19.2ポイント低い。



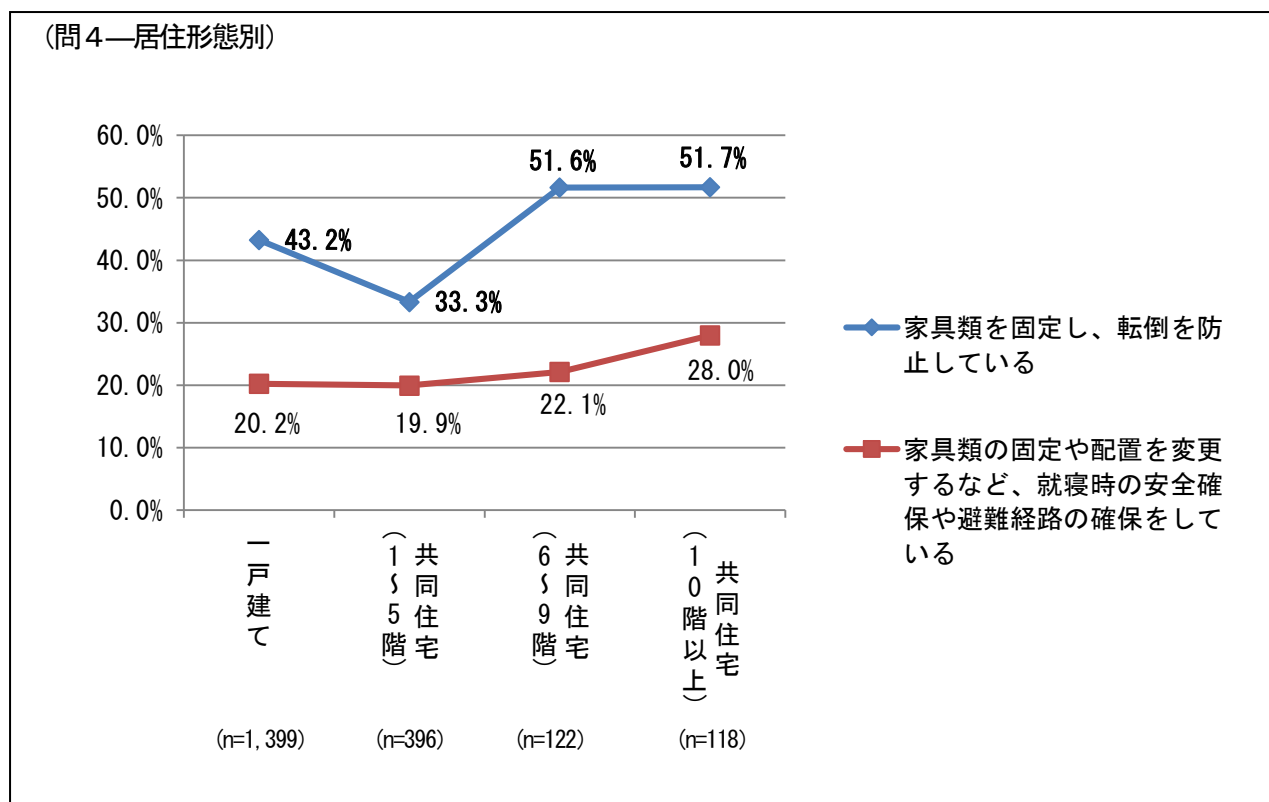
○住宅の所有形態別

・「家具類を固定し、転倒防止をしている」を住宅の所有形態別で見ると、『賃貸住宅』(28.3%)は『持ち家』(44.5%)に比べ、16.2ポイント低い。



○居住形態別

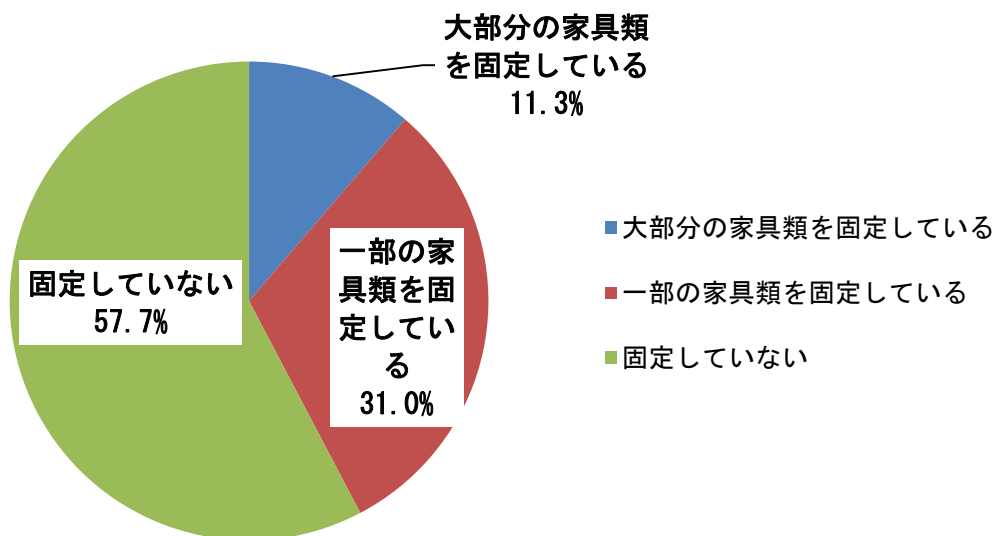
「家具類を固定し、転倒防止をしている」を**居住形態別**で見ると、最も高い『共同住宅(10階以上)』(51.7%)と、最も低い『共同住宅(1～5階)』(33.3%)では、18.4ポイントの差が見られた。



○住宅の構造別 (木造／非木造)

「家具類を固定し、転倒防止をしている」を**住宅の構造別**で見ると、大きな差異は特に見られない。

問5. あなたの家庭では地震に備えて家具類の固定をし、転倒を防止する対策をしていますか。
 (※問4の数値結果も用い、集計した) (n=2,035)

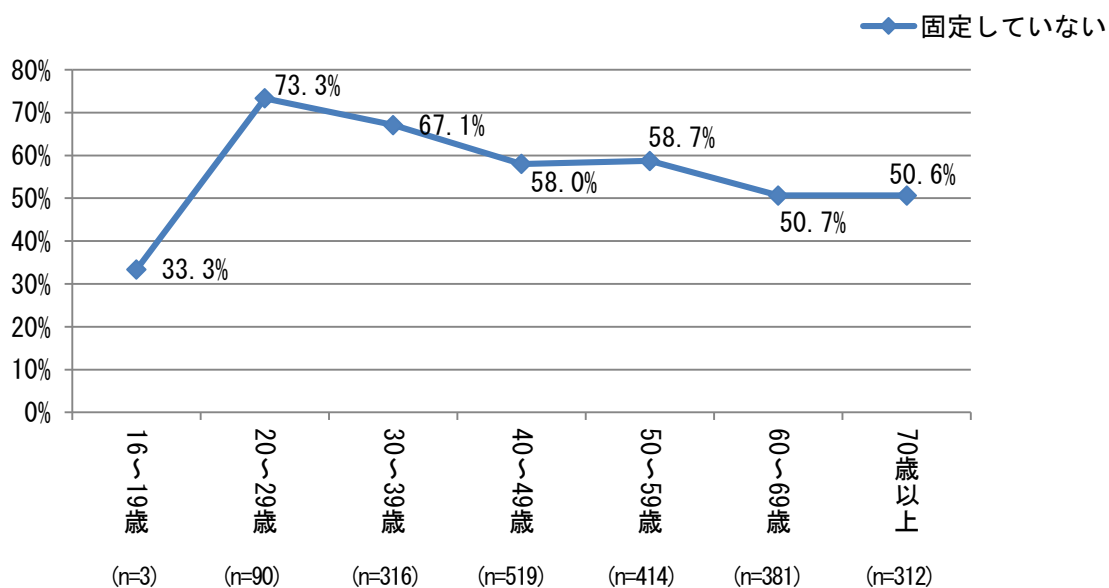


家庭で地震に備えて家具類を固定し、転倒を防止する対策をしているか尋ねたところ、「固定していない」が57.7%、「一部の家具類を固定している」が31.0%、「大部分の家具類を固定している」が11.3%であった。

性別で見ると、「固定していない」が『男性』は57.3%、『女性』は58.3%など、大きな差異は特に見られない。

年齢層別で見ると、若い年齢層ほど家具類を「固定していない」者の割合が高くなっている。

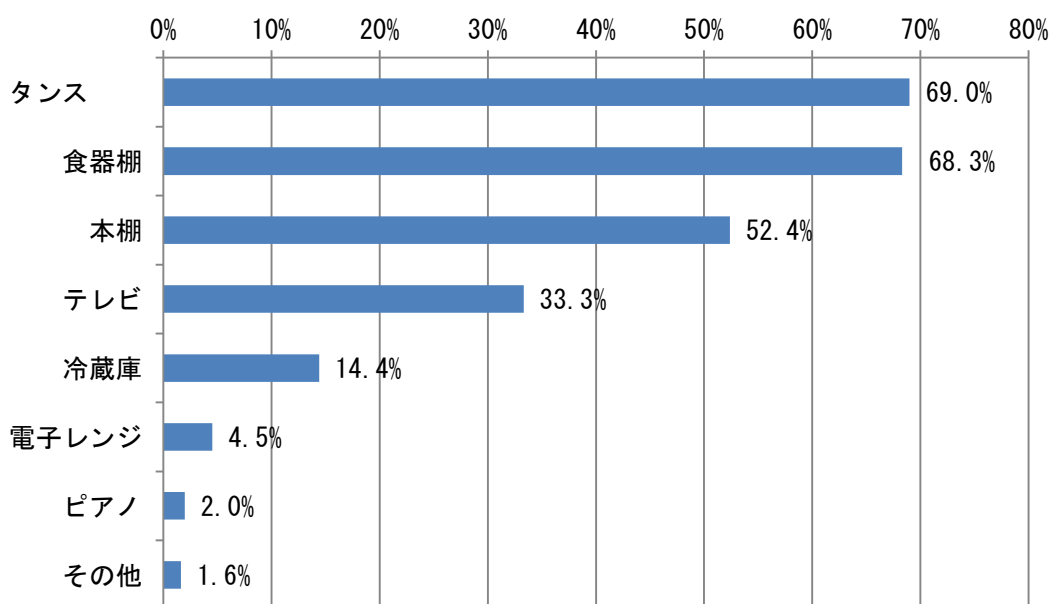
(問5—年齢層別「固定していない」割合)



<問4で「家具類を固定し、転倒を防止している」を選んだ方にお伺いします>

問6. あなたの家庭では、どのような家具類を固定していますか。(いくつでも)

(n=861, M.T.=2,114)

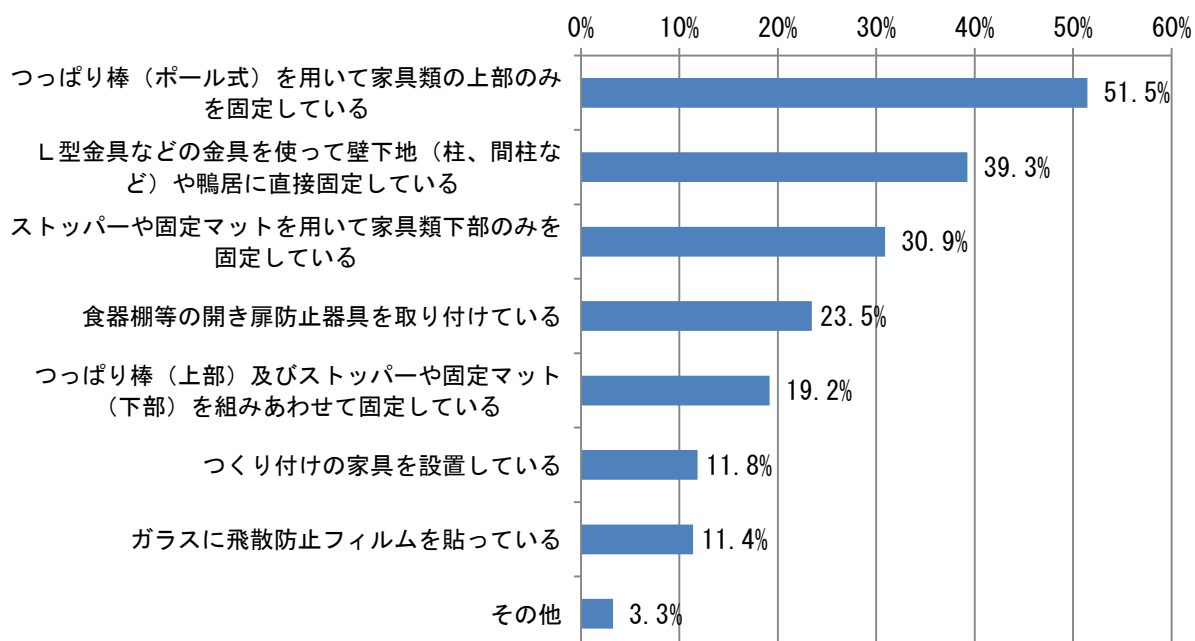


家庭でどのような家具類を固定しているか尋ねたところ、「タンス」(69.0%)が最も高く、以下、「食器棚」(68.3%)、「本棚」(52.4%)などの順となっている。

<問4で「家具類を固定し、転倒を防止している」を選んだ方にお伺いします>

問7. あなたの家庭では、どのように家具類の固定や安全対策をしていますか。(いくつでも)

(n=861, M.T.=1,642)



家庭でどのように家具類の固定や安全対策をしているか尋ねたところ、「つっぱり棒を用いて家具類の上部のみを固定している」(51.5%)が最も高く、以下、「L型金具などの金具を使って壁下地や鴨居に直接固定している」(39.3%)、「ストッパーや固定マットを用いて家具類下部のみを固定している」(30.9%)などの順となっている。

年齢層別で見ると、「L型金具などの金具を使って壁下地や鴨居に直接固定している」は、『20歳代』は20.8%、『70歳以上』は50.0%であり、29.2ポイントの差が見られる。

(問7—年齢層別)	(n=2)	(n=24)	(n=104)	(n=218)	(n=171)	(n=188)	(n=154)
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
L型金具などの金具を使って壁下地(柱、間柱など)や鴨居に直接固定している	0.0%	20.8%	30.8%	32.1%	45.6%	40.4%	50.0%
つっぱり棒(ポール式)を用いて家具類の上部のみを固定している	100.0%	54.2%	52.9%	51.8%	56.7%	51.6%	42.9%
つっぱり棒(上部)及びストッパーや固定マット(下部)を組み合わせて固定している	50.0%	16.7%	13.5%	21.6%	21.6%	19.7%	16.2%
ストッパーや固定マットを用いて家具類下部のみを固定している	0.0%	12.5%	28.8%	41.3%	22.8%	31.4%	29.2%
ガラスに飛散防止フィルムを貼っている	0.0%	12.5%	8.7%	11.0%	13.5%	12.2%	10.4%
食器棚等の開き扉防止器具を取り付けている	50.0%	20.8%	17.3%	22.5%	19.3%	23.4%	33.8%
つくり付けの家具を設置している	50.0%	4.2%	7.7%	14.2%	11.1%	14.4%	9.7%
その他	0.0%	0.0%	3.8%	1.4%	4.7%	3.2%	4.5%

居住形態別で見ると、「L型金具などの金具を使って壁下地や鴨居に直接固定している」は、『一戸建て』(44.5%)での実施率が高い。

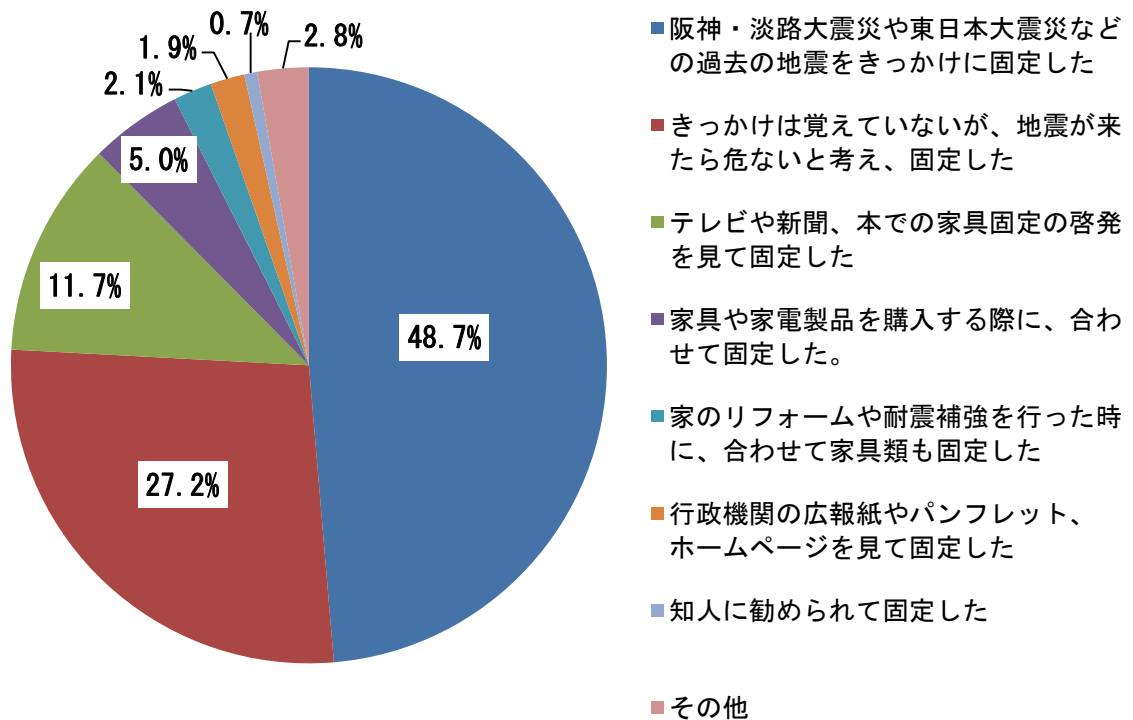
(問7—居住形態別)	(n=605)	(n=132)	(n=63)	(n=61)
	一戸建て	共同住宅(1～5階)	共同住宅(6～9階)	共同住宅(10階以上)
L型金具などの金具を使って壁下地(柱、間柱など)や鴨居に直接固定している	44.5%	27.3%	27.0%	26.2%
つっぱり棒(ポール式)を用いて家具類の上部のみを固定している	49.9%	53.8%	65.1%	47.5%
つっぱり棒(上部)及びストッパーや固定マット(下部)を組み合わせて固定している	18.3%	17.4%	19.0%	31.1%
ストッパーや固定マットを用いて家具類下部のみを固定している	29.3%	33.3%	34.9%	37.7%
ガラスに飛散防止フィルムを貼っている	10.9%	12.9%	9.5%	14.8%
食器棚等の開き扉防止器具を取り付けている	23.1%	16.7%	28.6%	36.1%
つくり付けの家具を設置している	14.4%	5.3%	4.8%	8.2%
その他	2.6%	3.0%	4.8%	8.2%

住宅の構造別で見ると、「L型金具などの金具を使って壁下地や鴨居に直接固定している」は、『木造』(46.6%)は『非木造』(27.5%)に比べ19.1ポイント高い。「つっぱり棒を用いて家具類の上部のみを固定している」は、『非木造』(54.1%)は『木造』(49.8%)に比べ4.3ポイント高い。

(問7—住宅の構造別)	(n=530)	(n=331)
	木造	非木造
L型金具などの金具を使って壁下地(柱、間柱など)や鴨居に直接固定している	46.6%	27.5%
つっぱり棒(ポール式)を用いて家具類の上部のみを固定している	49.8%	54.1%
つっぱり棒(上部)及びストッパーや固定マット(下部)を組み合わせて固定している	18.7%	19.9%
ストッパーや固定マットを用いて家具類下部のみを固定している	28.7%	34.4%
ガラスに飛散防止フィルムを貼っている	11.1%	11.8%
食器棚等の開き扉防止器具を取り付けている	21.3%	26.9%
つくり付けの家具を設置している	12.8%	10.3%
その他	3.0%	3.6%

<問4で「家具類を固定し、転倒を防止している」を選んだ方にお伺いします>

問8. 家具類の固定を実施したきっかけを教えてください。(もっともあてはまるもの一つ)
(n=861)

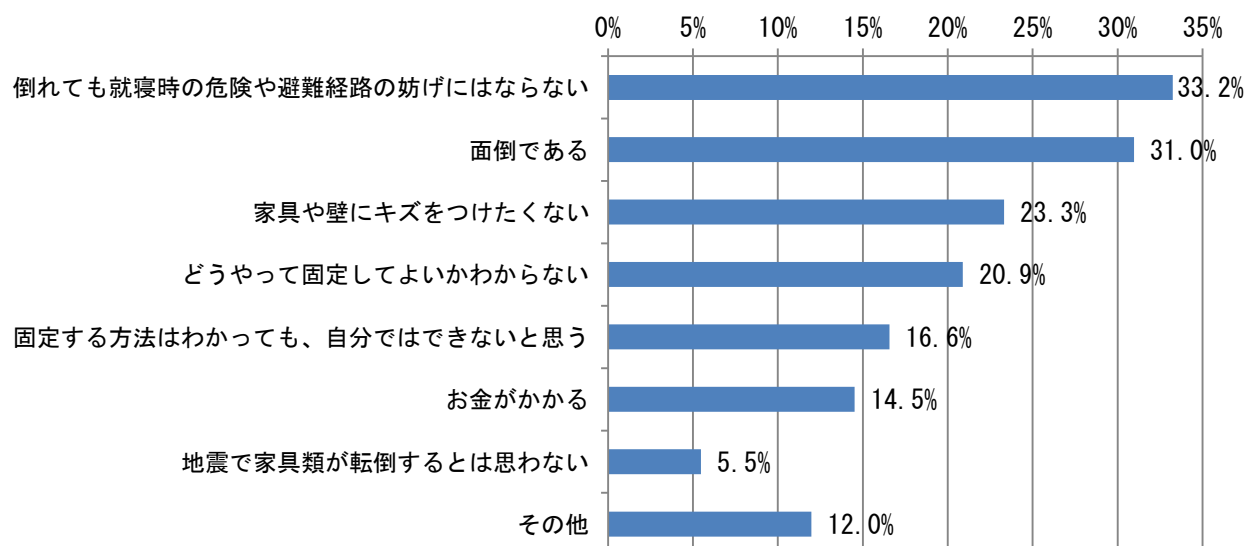


家具類の固定を実施したきっかけを尋ねたところ、「阪神・淡路大震災や東日本大震災などの過去の地震をきっかけに固定した」(48.7%)が最も高く、以下、「きっかけは覚えていないが、地震が来たら危ないと考え、固定した」(27.2%)、「テレビや新聞、本での家具固定の啓発を見て固定した」(11.7%)となどの順となっている。

<問4で「家具類を固定し、転倒を防止している」を選ばなかった方にお伺いします>

問9. あなたの家庭で家具類の固定を行っていない理由を、次の中からいくつでも選んでください。(いくつでも)

(n=785, M. T.=1, 232)



家庭で家具類の固定を行っていない理由について尋ねたところ、「倒れても就寝時の危険や避難経路の妨げにはならない」(33.2%)が最も高く、以下、「面倒である」(31.0%)、「家具や壁にキズをつけたくない」(23.3%)、「どうやって固定してよいかわからない」(20.9%)、「固定方法はわかっている、自分ではできないと思う」(16.6%)などの順となっている。

年齢層別で見ると、「面倒である」は『20歳代』及び『50歳代』の最も高い固定しない理由となっている。また、60歳以上は他の世代に比べ、「固定する方法は分かっている、自分ではできないと思う」の割合が高い傾向にある。

(問9—年齢層別)

	(n=0)	(n=44)	(n=135)	(n=187)	(n=166)	(n=141)	(n=112)
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
どうやって固定してよいかわからない	0.0%	25.0%	25.2%	22.5%	21.7%	12.8%	20.5%
固定する方法はわかっている、自分ではできないと思う	0.0%	13.6%	12.6%	10.2%	15.1%	22.7%	27.7%
家具や壁にキズをつけたくない	0.0%	22.7%	25.2%	32.1%	24.7%	11.3%	19.6%
面倒である	0.0%	43.2%	29.6%	27.3%	35.5%	23.4%	36.6%
倒れても就寝時の危険や避難経路の妨げにはならない	0.0%	15.9%	30.4%	26.7%	31.3%	45.4%	42.0%
お金がかかる	0.0%	29.5%	20.0%	12.3%	16.3%	10.6%	8.0%
地震で家具類が転倒するとは思わない	0.0%	2.3%	5.9%	2.7%	5.4%	6.4%	9.8%
その他	0.0%	6.8%	8.9%	14.4%	7.8%	19.1%	10.7%

住宅の所有形態別で見ると、「家具や壁にキズをつけたくない」は『賃貸住宅』居住者(38.0%)で最も高い固定しない理由となっている。

(問9—所有形態別)

	(n=656)	(n=129)
	持ち家	賃貸住宅
どうやって固定してよいかわからない	21.0%	20.2%
固定する方法はわかっている、自分ではできないと思う	17.1%	14.0%
家具や壁にキズをつけたくない	20.4%	38.0%
面倒である	32.0%	25.6%
倒れても就寝時の危険や避難経路の妨げにはならない	34.6%	26.4%
お金がかかる	14.3%	15.5%
地震で家具類が転倒するとは思わない	5.5%	5.4%
その他	11.4%	14.7%

家具の固定

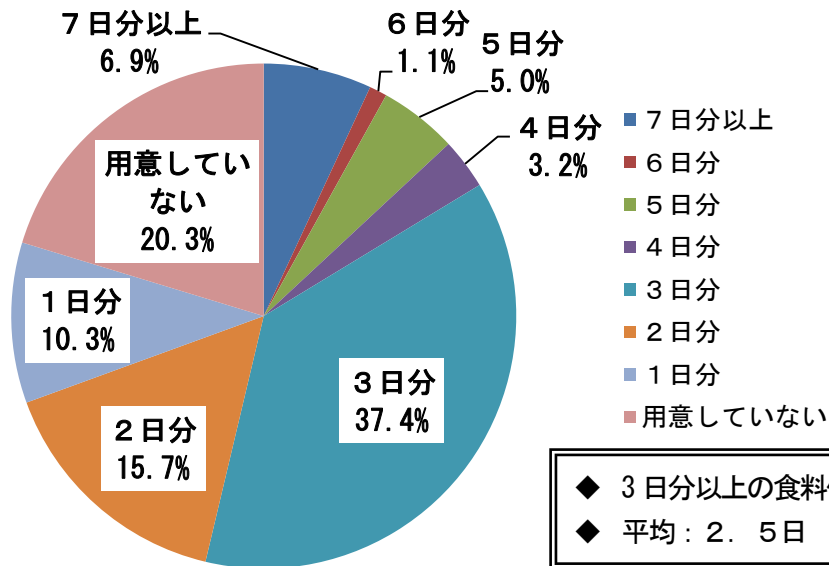
埼玉県では、首都直下地震の発生が懸念される中、「命を守る3つの自助の取組」を呼びかけるなど、減災に向けた県民の自助の取組を促進しています。“自分の命は自分で守る”ためには、家具類の固定(室内の安全対策)は、建物の耐震化と並んで、最も重要な対策となっています。

家具類の固定方法については、リーフレット『家具の固定をしましょう』や危機管理課ホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/kagunokotei.html>)を提供しています。

また、家具の固定を専門家をお願いしたい場合には、『家具固定サポーター登録制度』が利用できます。危機管理課ホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/kagukotei-supporter.html>)にて、利用方法やサポーター名簿などを提供しています。

問10. あなたの家庭では、災害時に利用できる食料品を何日分用意していますか。

(n=2,035)



(注)「7日分以上」の回答については、「7日」として平均値を算出した

家庭で災害時に利用できる食料品を何日分用意しているか尋ねたところ、「3日分」以上用意している家庭は53.7%、「用意していない」家庭は20.3%、平均備蓄日数は2.5日であった。

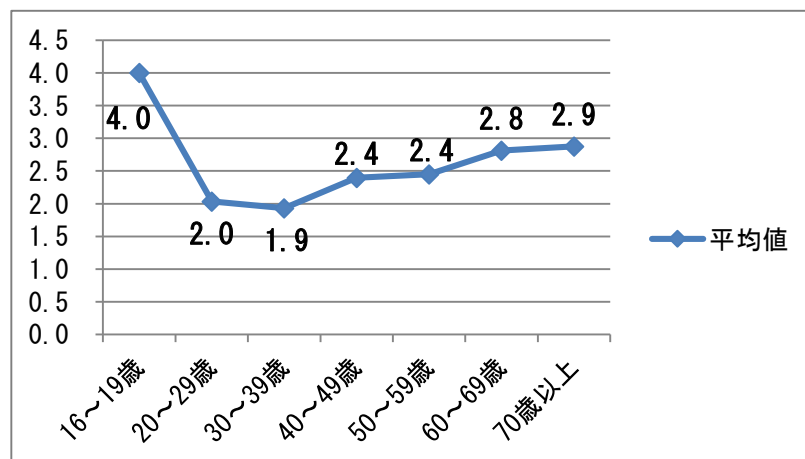
年齢層別で見ると、概ね年齢層が高いほど、備蓄日数が多い傾向にあった。特に、『20歳代』及び『30歳代』における回答では、「用意していない」と回答した者の割合が最も高く（『20歳代』が34.4%、『30歳代』が29.4%）なっている。

(問10—年齢層別)

(n=2,035)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
7日分以上	33.3%	6.7%	3.8%	7.7%	7.7%	8.1%	6.1%
6日分	0.0%	2.2%	0.9%	0.8%	0.7%	1.3%	1.9%
5日分	0.0%	2.2%	3.5%	4.4%	4.6%	5.8%	8.0%
4日分	0.0%	3.3%	2.5%	2.7%	1.4%	5.0%	5.1%
3日分	33.3%	30.0%	26.3%	34.3%	38.2%	43.8%	47.1%
2日分	33.3%	7.8%	20.9%	16.2%	16.7%	13.6%	13.1%
1日分	0.0%	13.3%	12.7%	12.9%	9.9%	8.7%	5.1%
用意していない	0.0%	34.4%	29.4%	21.0%	20.8%	13.6%	13.5%

《食料の備蓄日数（年齢層別平均値）》



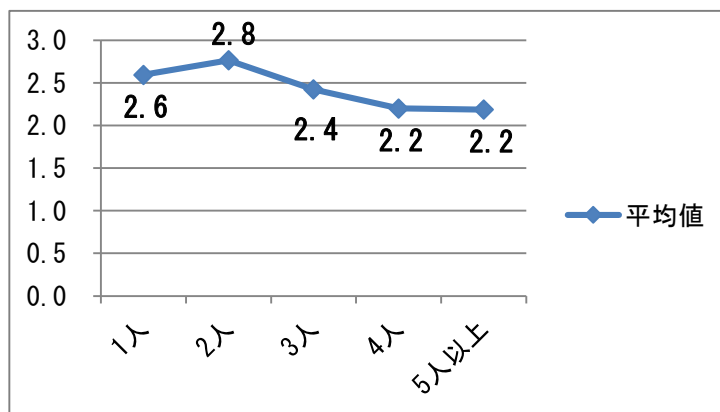
同居の家族人数別で見ると、『1人(单身)』世帯は、「何も用意していない」と回答した者の割合が最も高くなっている。また食料の備蓄日数の平均値でみると、家族人数が増えるほど、備蓄日数が少ない傾向にある。

(問10—同居の家族人数別)

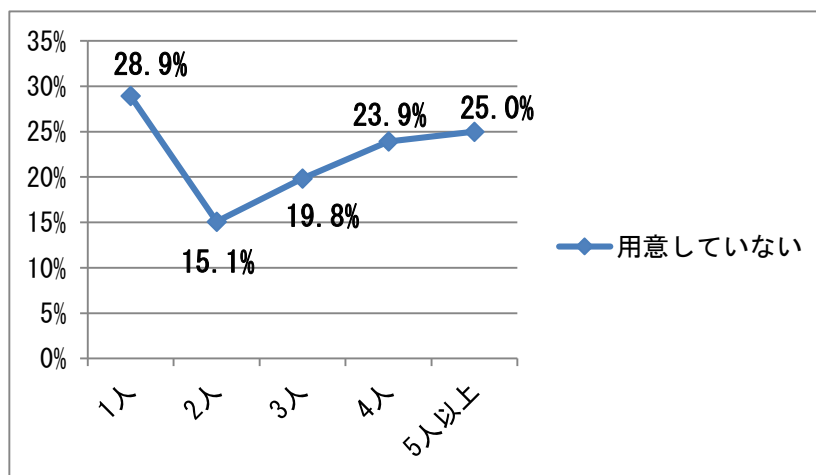
(n=2,035)

	1人	2人	3人	4人	5人以上
7日分以上	10.7%	8.0%	5.6%	5.8%	6.7%
6日分	3.3%	1.4%	1.0%	0.6%	0.4%
5日分	9.1%	5.6%	5.3%	3.0%	4.6%
4日分	4.1%	4.3%	2.9%	2.8%	1.3%
3日分	24.8%	43.2%	39.1%	33.0%	31.7%
2日分	9.1%	14.4%	15.6%	19.4%	16.3%
1日分	9.9%	7.9%	10.7%	11.4%	14.2%
用意していない	28.9%	15.1%	19.8%	23.9%	25.0%

《食料品の備蓄日数（同居の家族人数別平均値）》

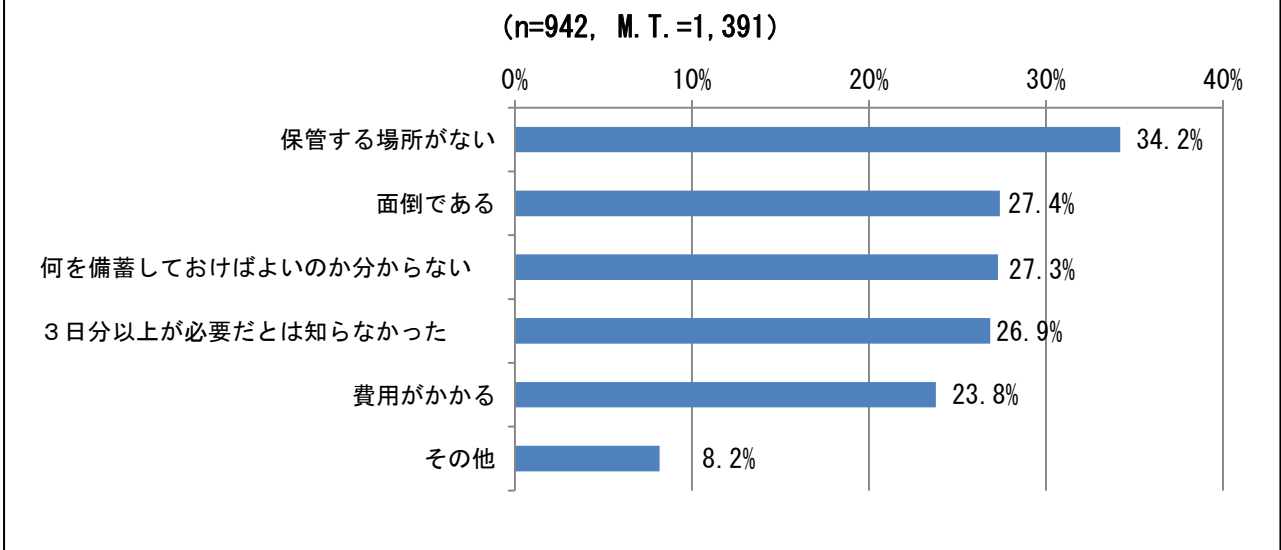


《食料品備蓄—「用意していない」(同居の家族人数別) 割合》



<問10で「2日分、1日分、用意していない」を選んだ方にお伺いします>

問11. 現在のところ3日以上以上の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。(いくつでも)



現在のところ3日以上以上の備蓄をしていないのはどのような理由からか尋ねたところ、「保管する場所がない」(34.2%)が最も高く、以下、「面倒である」(27.4%)、「何を備蓄しておけばよいのか分からない」(27.3%)、「3日以上が必要だとは知らなかった」(26.9%)などの順となっている。

性別で見ると、「面倒である」を理由とした回答が、『男性』(32.8%)は『女性』(20.4%)に比べ、12.4ポイント高くなっている。

(問11—性別)	(n=530)	(n=412)	(n=942)
	男性	女性	全体
3日以上が必要だとは知らなかった	28.3%	25.0%	26.9%
保管する場所がない	30.2%	39.3%	34.2%
何を備蓄しておけばよいのか分からない	24.0%	31.6%	27.3%
費用がかかる	23.2%	24.5%	23.8%
面倒である	32.8%	20.4%	27.4%
その他	7.4%	9.2%	8.2%

年齢層別で見ると、「何を備蓄しておけばよいのか分からない」が『20歳代』の最も高い理由となっている。また、「3日以上が必要だとは知らなかった」が『70歳以上』の最も高い理由となっている。

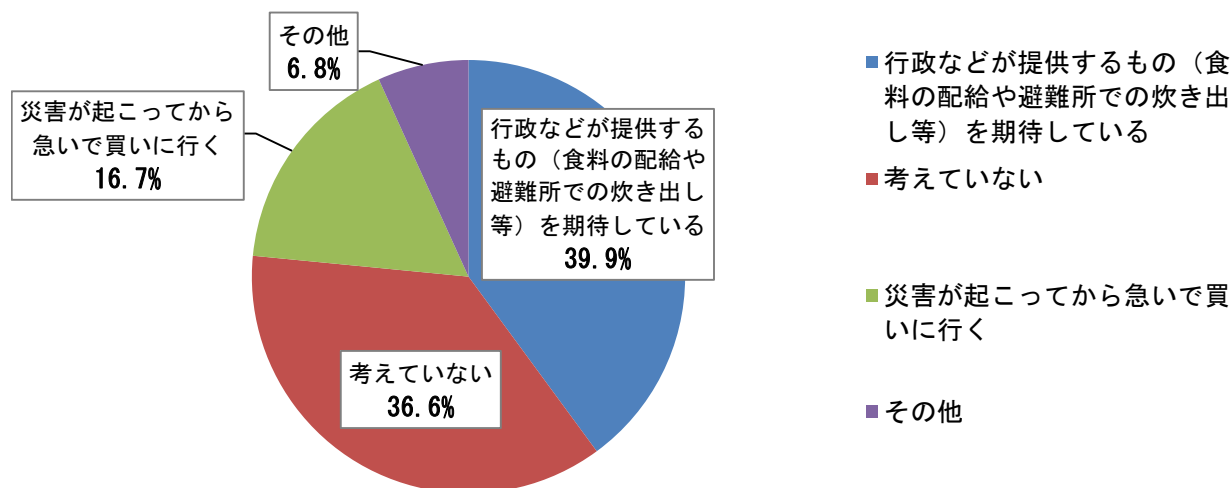
(問11—年齢層別)	(n=1)	(n=50)	(n=199)	(n=260)	(n=196)	(n=137)	(n=99)
	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
3日以上が必要だとは知らなかった	0.0%	14.0%	25.6%	22.7%	26.0%	30.7%	43.4%
保管する場所がない	100.0%	34.0%	37.7%	42.7%	30.6%	29.2%	18.2%
何を備蓄しておけばよいのか分からない	0.0%	36.0%	30.2%	28.1%	20.4%	29.9%	25.3%
費用がかかる	0.0%	24.0%	31.2%	26.9%	20.9%	19.0%	13.1%
面倒である	0.0%	30.0%	30.2%	26.9%	23.5%	25.5%	32.3%
その他	0.0%	8.0%	7.5%	5.8%	9.2%	10.2%	11.1%

同居の家族人数別で見ると、「保管する場所がない」を理由とした回答が、全体的に高い傾向にあるが、とりわけ『5人以上』の世帯では高い理由となっている。

(問 11—同居の家族人数別)	(n=58)	(n=260)	(n=237)	(n=254)	(n=133)
	1人	2人	3人	4人	5人以上
3日以上が必要だとは知らなかった	31.0%	35.4%	21.1%	22.8%	26.3%
保管する場所がない	32.8%	26.5%	38.0%	35.8%	39.8%
何を備蓄しておけばよいのか分からない	19.0%	26.9%	28.7%	29.9%	24.1%
費用がかかる	22.4%	21.2%	24.1%	27.6%	21.8%
面倒である	31.0%	23.5%	34.6%	26.4%	22.6%
その他	3.4%	11.2%	8.4%	5.9%	8.3%

<問 10 で「2日分、1日分、用意していない」を選んだ方にお伺いします>

問 12. 実際に災害が起こり、ライフラインや物流が途絶えた中で食料が必要になった場合は、どのように確保しようと考えていますか。 (n=942)



実際に災害が起こり、ライフラインや物流が途絶えた中で食料が必要になった場合はどのように確保しようと考えているか尋ねたところ、「行政などが提供するもの（食料の配給や避難所での炊き出し等）を期待している」（39.9%）が最も高く、次いで「考えていない」（36.6%）となっている。

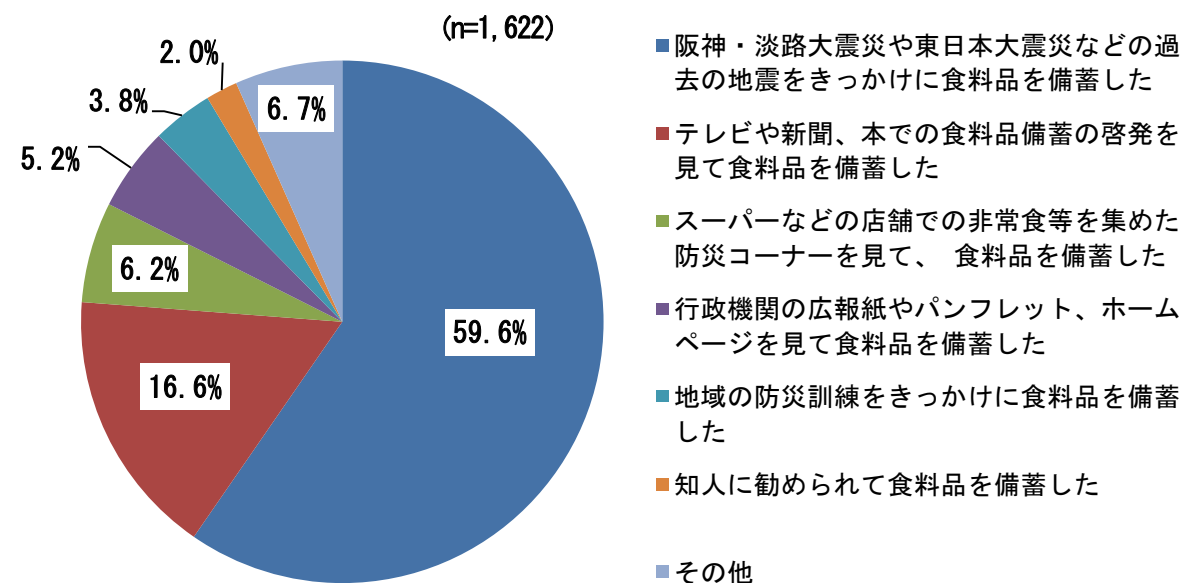
性別、同居の家族の人数別で見ると、大きな差異は特に見られない。

年齢層別で見ると、「考えていない」が20代の最も高い理由となっている。

(問 12—年齢層別)	(n=1)	(n=50)	(n=199)	(n=260)	(n=196)	(n=137)	(n=99)
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
考えていない	100.0%	46.0%	39.7%	34.2%	39.3%	28.5%	37.4%
災害が起こってから急いで買いに行く	0.0%	10.0%	21.1%	20.4%	12.2%	10.2%	19.2%
行政などが提供するもの（食料の配給や避難所での炊き出し等）を期待している	0.0%	44.0%	34.2%	38.8%	41.3%	51.8%	33.3%
その他	0.0%	0.0%	5.0%	6.5%	7.1%	9.5%	10.1%

<問10で「用意していない」以外を選んだ方にお伺いします>

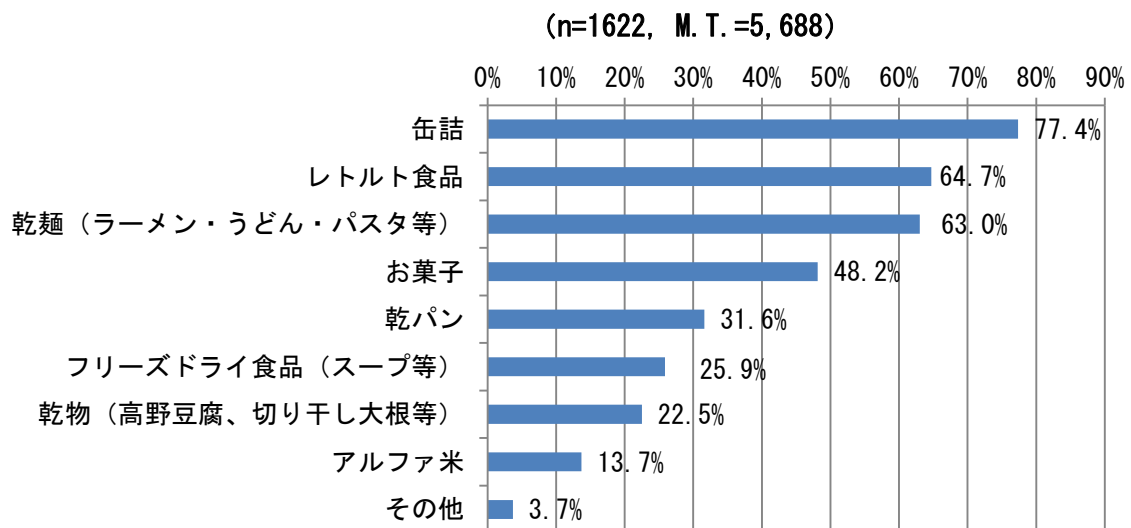
問13. 食料品備蓄を実施したきっかけを教えてください。(もっともあてはまるもの一つ)



食料品備蓄を実施したきっかけを尋ねたところ、「阪神・淡路大震災や東日本大震災などの過去の地震をきっかけに食料品を備蓄した」(59.6%)が最も高く、次いで「テレビや新聞、本での食料品備蓄の啓発を見て食料品を備蓄した」(16.6%)となどの順となっている。

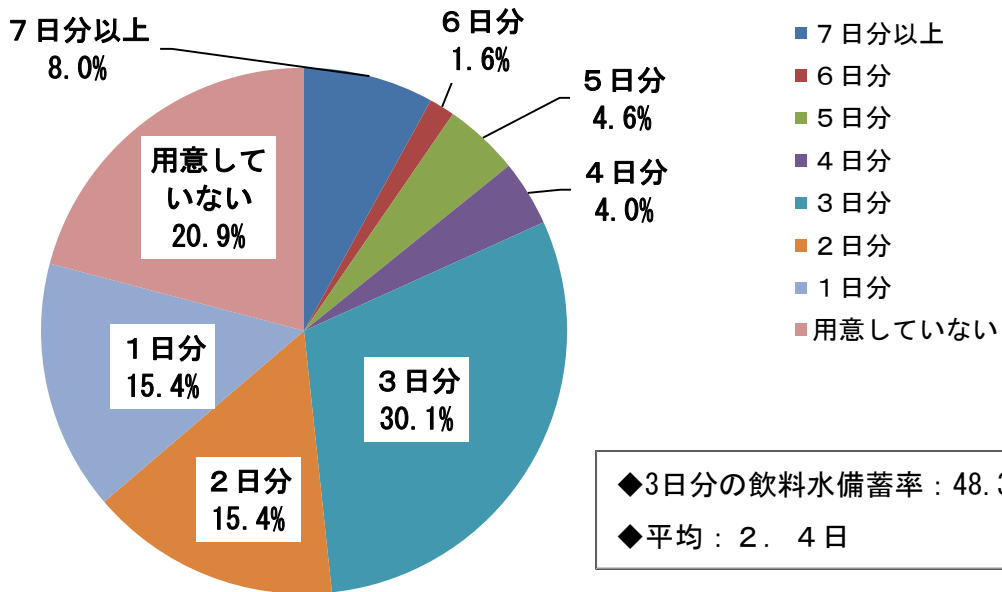
<問10で「用意していない」以外を選んだ方にお伺いします>

問14. どのような食料品を備蓄していますか。(いくつでも)



どのような食料品を備蓄しているかを尋ねたところ、「缶詰」(77.4%)が最も高く、以下「レトルト食品」(64.7%)、「乾麺(ラーメン・うどん・パスタ等)」(63.0%)などの順となっている。

問15. あなたの家庭では、何日分の飲料水を備蓄していますか。ご家族1人1日あたり3リットルで計算してください。 (n=2,035)



(注)「7日分以上」の回答については、「7日」として平均値を算出した

家庭で飲料水を何日分備蓄しているか尋ねたところ、「3日分」以上用意している家庭は48.3%、「用意していない」家庭は20.9%、平均備蓄日数は2.4日であった。

年齢層別で見ると、概ね年齢層が高いほど、備蓄日数が多い傾向にあった。特に、『20歳代』、『30歳代』及び『40代』における回答では、「用意していない」と回答した者の割合が最も高く（『20歳代』が37.8%、『30歳代』が29.4%、『40歳代』が25.4%）なっている。

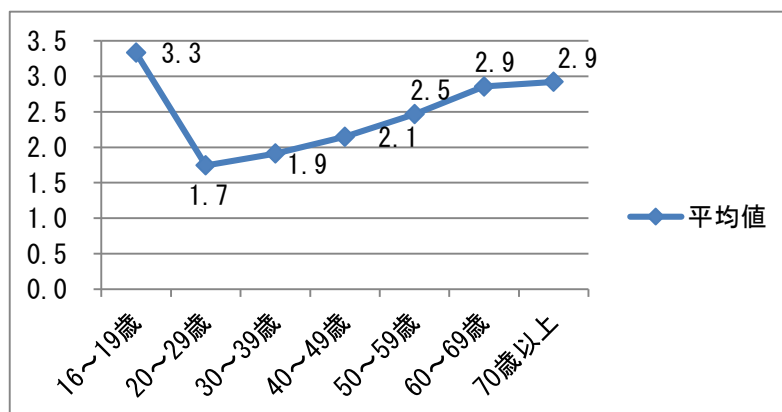
また、これら結果については、食料備蓄とほぼ同じ傾向がみられる。

(問10—年齢層別)

(n=2,035)

	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
7日分以上	33.3%	5.6%	5.1%	6.7%	8.9%	11.5%	8.0%
6日分	0.0%	1.1%	1.3%	1.2%	1.0%	2.1%	2.9%
5日分	0.0%	1.1%	2.8%	5.0%	4.3%	3.1%	9.0%
4日分	0.0%	5.6%	2.5%	3.7%	3.4%	5.8%	4.5%
3日分	33.3%	20.0%	23.1%	24.3%	32.1%	36.5%	39.1%
2日分	0.0%	12.2%	18.7%	14.5%	15.0%	15.7%	15.1%
1日分	0.0%	16.7%	17.1%	19.3%	16.7%	12.6%	8.7%
用意していない	33.3%	37.8%	29.4%	25.4%	18.6%	12.6%	12.8%

《飲料水の備蓄日数（年齢層別平均値）》

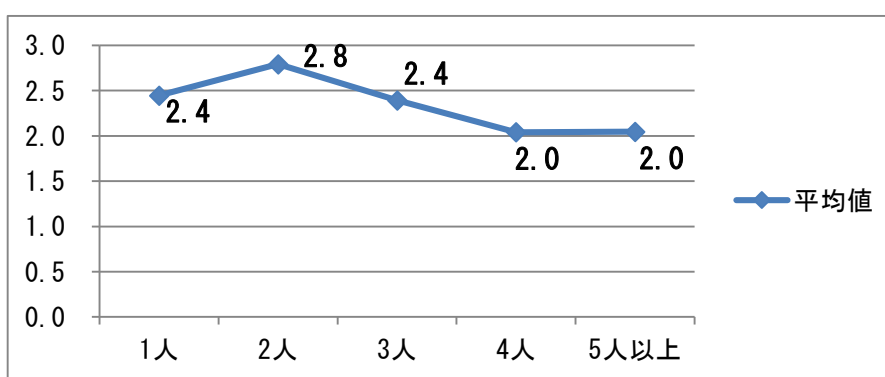


同居の家族人数別で見ると、『1人(単身)』世帯は、「何も用意していない」と回答した者の割合が32.2%で最も高くなっている。また食料の備蓄日数の平均値でみると、家族人数が増えるほど、備蓄日数が少ない傾向にある。また、これら結果については、食料備蓄とほぼ同じ傾向がみられる。

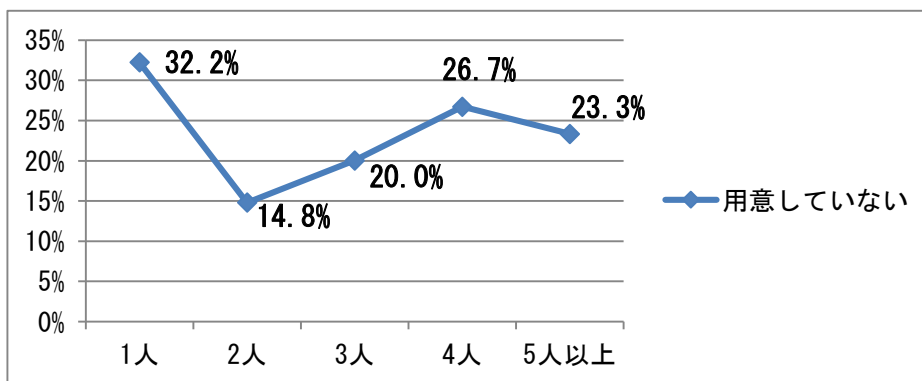
(問 15—同居の家族人数別 (n=2, 035))

	1人	2人	3人	4人	5人以上
7日分以上	12.4%	11.1%	5.1%	6.3%	6.7%
6日分	1.7%	1.6%	2.5%	0.6%	1.3%
5日分	5.8%	5.7%	5.3%	3.7%	1.3%
4日分	5.0%	5.3%	4.5%	2.6%	1.7%
3日分	22.3%	33.2%	33.3%	24.8%	28.3%
2日分	11.6%	14.5%	15.4%	18.1%	15.0%
1日分	9.1%	13.8%	14.0%	17.2%	22.5%
用意していない	32.2%	14.8%	20.0%	26.7%	23.3%

《飲料水の備蓄日数(同居の家族人数別平均値)》



《飲料水備蓄—「用意していない」(同居の家族人数別)割合》



食料品の備蓄日数別でみると、食料品の備蓄日数が多い者は、飲料水の備蓄も多い傾向にあった。また、食料品の備蓄について『用意していない』と回答したうちの71.2%が、飲料水も「用意していない」と回答している。

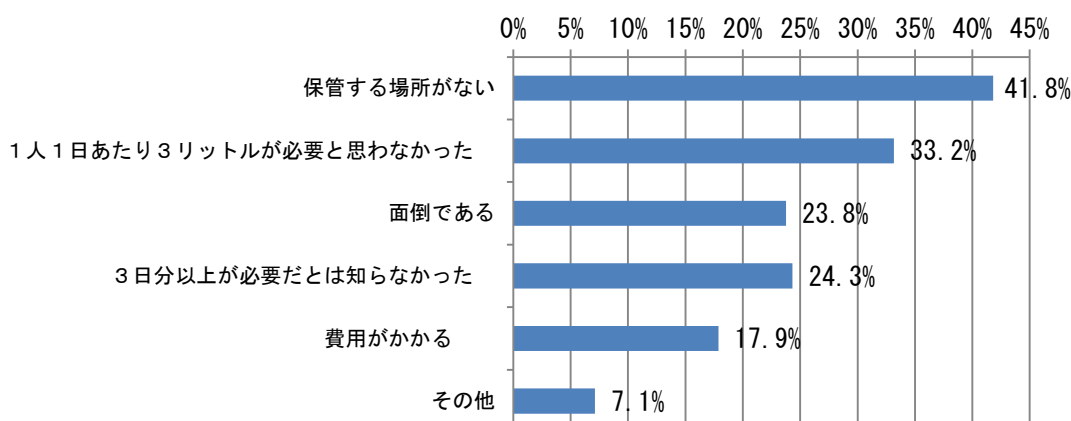
(問 15—食料品の備蓄日数別) (n=141) (n=23) (n=102) (n=66) (n=761) (n=320) (n=209) (n=413)

		7日分以上	6日分	5日分	4日分	3日分	2日分	1日分	用意していない
飲料水備蓄	7日分以上	57.4%	17.4%	13.7%	6.1%	5.4%	1.6%	3.3%	1.7%
	6日分	2.8%	26.1%	6.9%	4.5%	1.3%	0.0%	0.0%	0.5%
	5日分	7.8%	0.0%	31.4%	10.6%	3.8%	2.8%	1.4%	0.7%
	4日分	8.5%	21.7%	6.9%	24.2%	3.4%	2.2%	1.0%	1.7%
	3日分	9.9%	30.4%	23.5%	24.2%	56.8%	19.1%	12.0%	8.0%
	2日分	7.1%	0.0%	7.8%	18.2%	13.0%	42.8%	13.4%	4.8%
	1日分	2.1%	4.3%	4.9%	4.5%	9.7%	21.6%	53.1%	11.4%
	用意していない	4.3%	0.0%	4.9%	7.6%	6.6%	10.0%	15.8%	71.2%

<問15で「2日分、1日分、用意していない」を選んだ方にお伺いします>

問16. 現在のところ3日以上以上の備蓄をしていないのはどのような理由からですか。(いくつでも)

(n=1,052, M. T.=1,558)



現在のところ3日以上以上の備蓄をしていないのはどのような理由からか尋ねたところ、「保管する場所がない」(41.8%)が最も高く、以下、「1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった」(33.2%)、「面倒である」(23.8%)、「3日以上が必要だとは知らなかった」(24.3%)などの順となっている。

性別で見ると、「保管する場所がない」を理由とする回答が男性女性ともに最も高く、次いで「1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった」が男女ともに高い。また、「面倒である」を理由とした回答が、男性(28.5%)は女性(18.3%)に比べ、10.2ポイント高くなっている。

(問16—性別)	(n=565)		(n=487)	(n=1,052)
	男性	女性	全体	
3日以上が必要だとは知らなかった	25.8%	22.6%	24.3%	
1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった	29.2%	37.8%	33.2%	
保管する場所がない	35.2%	49.5%	41.8%	
費用がかかる	18.8%	16.8%	17.9%	
面倒である	28.5%	18.3%	23.8%	
その他	7.3%	7.0%	7.1%	

年齢層別で見ると、「保管する場所がない」が『70歳未満』の最も高い理由となっている。『70歳以上』は「3日以上が必要だとは知らなかった」が最も高く、「1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった」が次いで高い理由となっている。

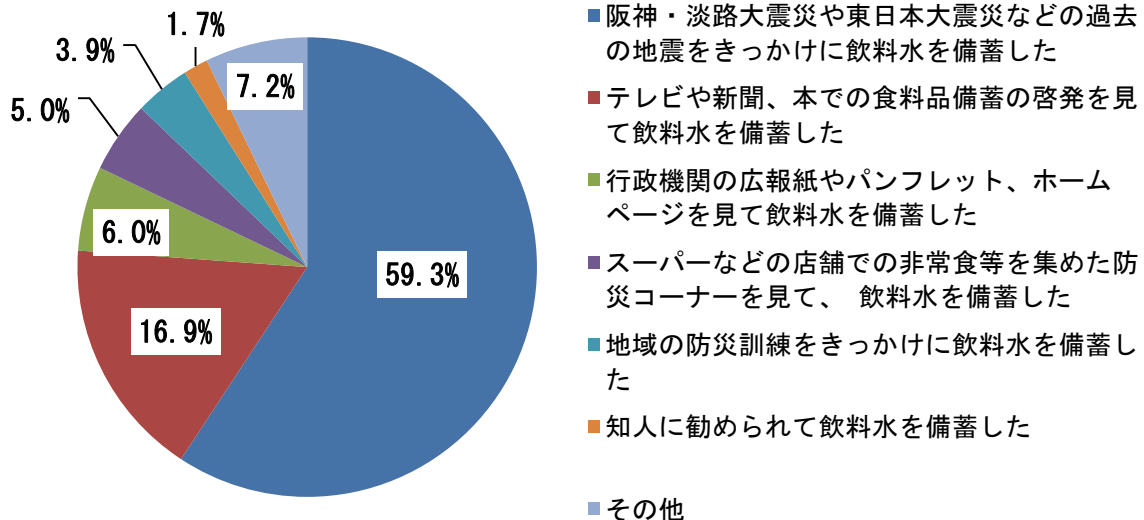
(問16—年齢層別)	(n=1)	(n=60)	(n=206)	(n=307)	(n=208)	(n=156)	(n=114)
	16~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
3日以上が必要だとは知らなかった	0.0%	18.3%	27.2%	18.6%	22.1%	25.6%	40.4%
1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった	0.0%	31.7%	37.9%	33.6%	26.0%	33.3%	37.7%
保管する場所がない	100.0%	45.0%	44.7%	45.0%	44.2%	37.8%	27.2%
費用がかかる	0.0%	15.0%	28.6%	20.8%	16.3%	9.6%	6.1%
面倒である	100.0%	30.0%	25.2%	21.5%	23.6%	19.9%	28.9%
その他	0.0%	5.0%	3.9%	7.5%	5.3%	11.5%	10.5%

同居の家族人数別で見ると、「保管する場所がない」を理由とした回答が、全年齢層で高い傾向にあるが、家族人数が増えるほど、回答が高い傾向にある。（『5人以上』世帯における回答では、52.7%が理由として挙げている）。

(問11—同居の家族人数別)	(n=64)	(n=300)	(n=254)	(n=288)	(n=146)
	1人	2人	3人	4人	5人以上
3日以上が必要だとは知らなかった	20.3%	28.0%	22.0%	23.6%	24.0%
1人1日あたり3リットルが必要と思わなかった	28.1%	32.7%	36.2%	35.4%	26.7%
保管する場所がない	31.3%	34.7%	40.6%	47.2%	52.7%
費用がかかる	17.2%	14.3%	18.1%	20.5%	19.9%
面倒である	28.1%	22.7%	26.4%	23.3%	20.5%
その他	9.4%	10.3%	5.1%	4.5%	8.2%

<問15で「用意していない」以外を選んだ方にお伺いします>

問17. 飲料水の備蓄を実施したきっかけを教えてください。（もっともあてはまるもの一つ）
(n=1,610)



飲料水の備蓄を実施したきっかけを尋ねたところ、「阪神・淡路大震災や東日本大震災などの過去の地震をきっかけに飲料水を備蓄した」(59.3%)が最も高く、次いで「テレビや新聞、本での食料品備蓄の啓発を見て飲料水を備蓄した」(16.9%)となどの順となっている。

3日以上の水・食料の備蓄

埼玉県では、首都直下地震の発生が懸念される中、「命を守る3つの自助の取組」を呼びかけるなど、減災に向けた県民の自助の取組を促進しています。

首都直下地震など大規模災害の場合には、食品や生活物資が店頭から売り切れるなど、物流機能が低下することや、ライフライン（電気・ガス・水道）が停止することも想定されます。水と食料は、命を守り、英気を養うことにつながりますので、自分と家族の3日以上（できれば1週間分）は、必ず備えておきましょう。

3日以上の水・食料の備蓄については、危機管理課ホームページ

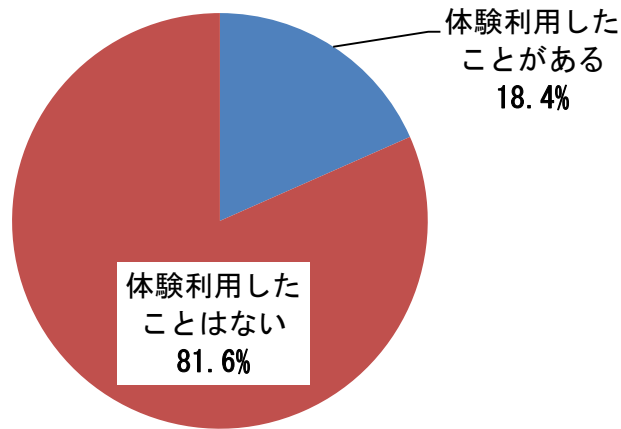
(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/3day-bitiku.html>) にて情報を提供しています。

また、水や食料を含めた“減災グッズ”については『減災グッズ チェックリスト』

(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/ji-jo-leaflet.html>) を提供しています。

問 18. あなたは、災害時に家族の安否を確認する手段として、災害用伝言サービス（NTT 東日本が提供する「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板 web 171」、携帯電話各社が提供する「災害用伝言板」「災害用音声お届けサービス」）を体験利用したことがありますか。

(n=2035)



災害用伝言サービスを体験利用したことがあるか尋ねたところ、「体験利用したことがある」は18.4%であった。

性別で見ると、「体験したことがある」が『男性』は18.5%、『女性』は18.3%であり、大きな差異は特に見られない。

年齢層別で見ると、特に『10歳代』及び『70歳代』で体験利用が低い割合となっている。（10代については回答数も少ないが、体験率0%）。

(問 18—年齢層別)

	(n=3)	(n=90)	(n=316)	(n=519)	(n=414)	(n=381)	(n=312)
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
体験利用したことがある	0.0%	16.7%	19.3%	18.7%	20.3%	21.8%	10.9%
体験利用したことはない	100.0%	83.3%	80.7%	81.3%	79.7%	78.2%	89.1%

同居の家族人数別で見ると、家族人数が多いほうが、体験率が高い傾向にあり、単身世帯と5人以上世帯では6.4ポイントの開きがある。

(問 18—同居の家族人数別)

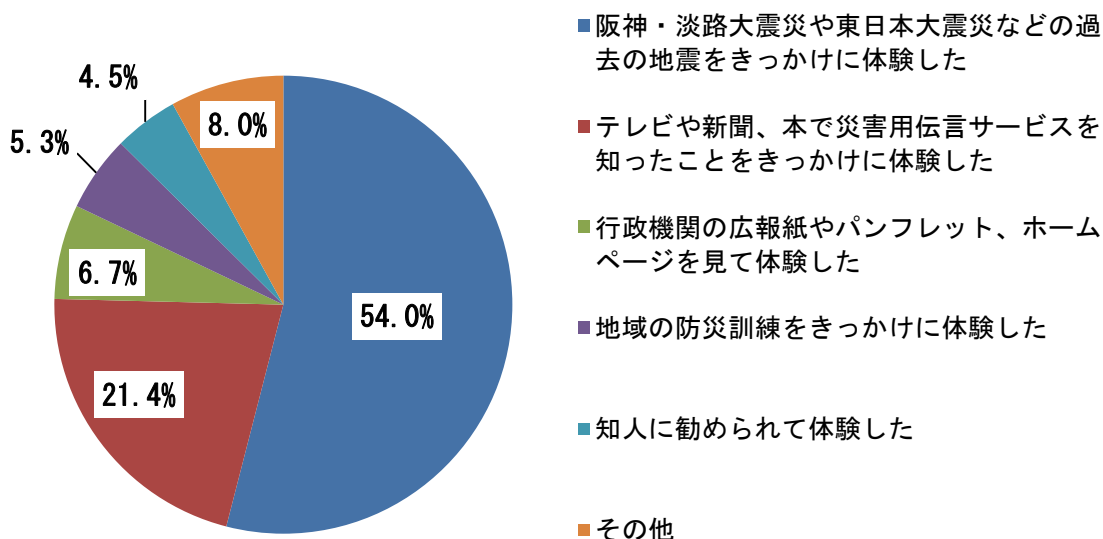
	(n=121)	(n=696)	(n=514)	(n=464)	(n=240)
	1人	2人	3人	4人	5人以上
体験利用したことがある	14.9%	15.7%	20.4%	19.6%	21.3%
体験利用したことはない	85.1%	84.3%	79.6%	80.4%	78.8%

<問18で「体験利用したことがある」を選んだ方にお伺いします>

問19. 災害用伝言サービスの体験利用をしたきっかけを教えてください。

(もっともあてはまるもの一つ)

(n=374)

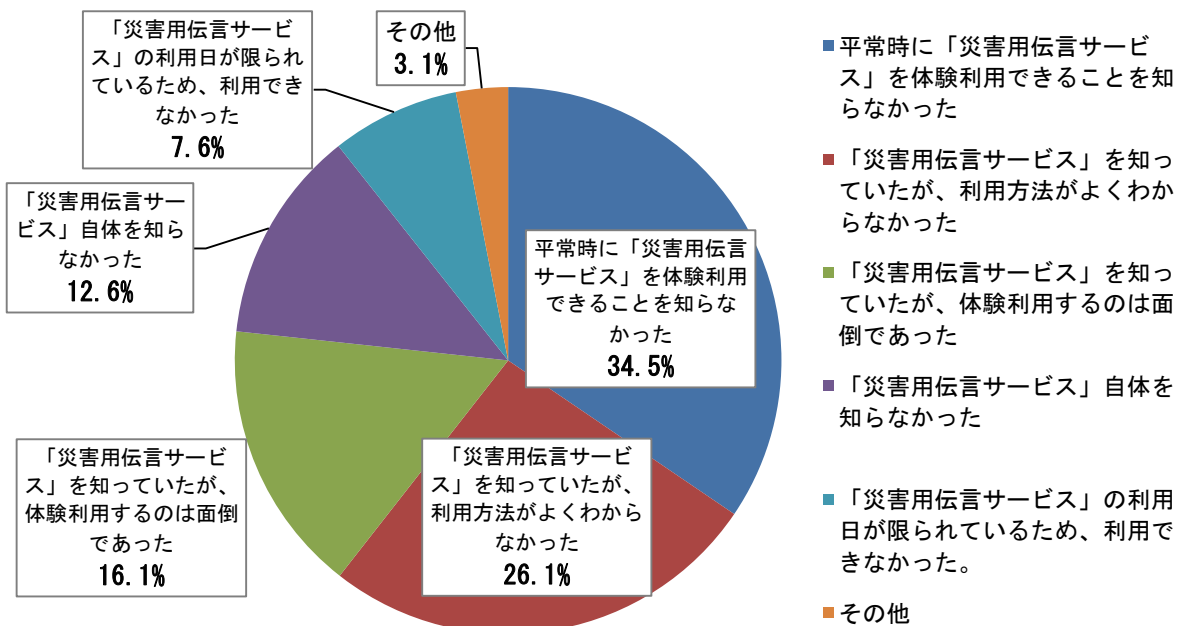


災害用伝言サービスの体験利用をしたきっかけを尋ねたところ、「阪神・淡路大震災や東日本大震災などの過去の地震をきっかけに体験した」(54.0%)が最も高く、次いで「テレビや新聞、本で災害用伝言サービスを知ったことをきっかけに体験した」(21.4%)となどの順となっている。

<問18で「体験利用したことはない」を選んだ方にお伺いします>

問20. 現在のところ体験利用していないのはどのような理由からですか。

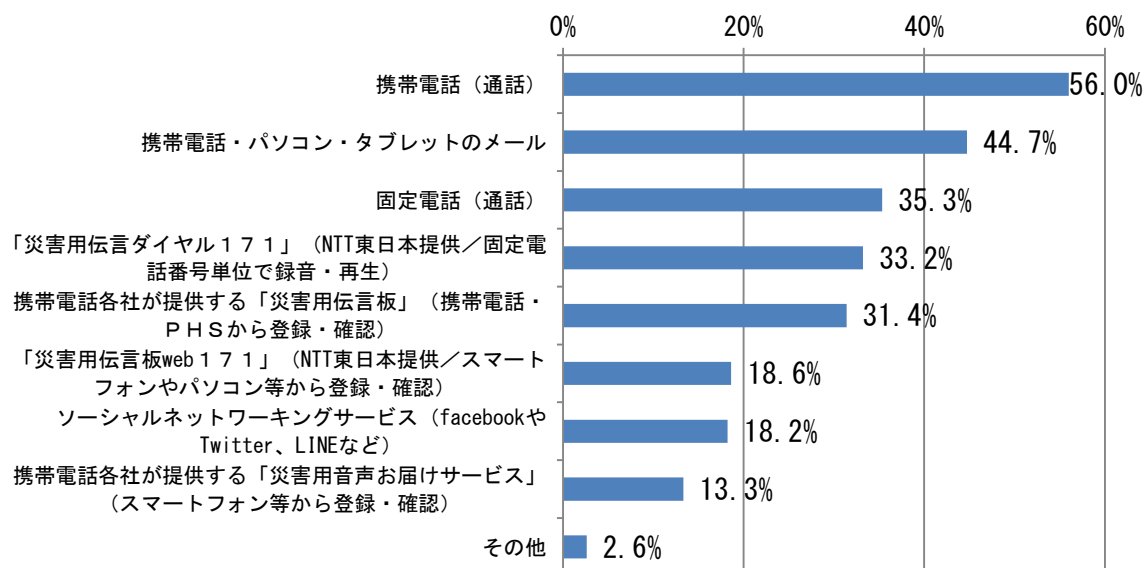
(n=1,661)



災害用伝言サービスを体験利用していないのはどのような理由からか尋ねたところ、「平時に「災害用伝言サービス」を体験利用できることを知らなかった」が34.5%と最も高く、以下、「「災害用伝言サービス」を知っていたが、利用方法がよくわからなかった」(26.1%)、「「災害用伝言サービス」自体を知らなかった」(16.1%)などの順となっている。

性別、年齢層別、同居の家族人数別で見ると、大きな差異は特に見られない。

問21. あなたは、災害時に家族や知人の安否を確認する手段として、どのような手段を考えていますか。(いくつでも) (n=2,035, M.T.=5,158)



災害時に家族や知人の安否を確認する手段を尋ねたところ、「携帯電話（通話）」(56.0%)が最も高く、以下「携帯電話・パソコン・タブレットのメール」(44.7%)、「固定電話（通話）」(35.3%)などの順となっている。

性別、同居の家族人数別で見ると、大きな差異は特に見られない。

年齢層別で見ると、「携帯電話（通話）」がほぼすべての年齢層で最も高い理由となっている。『70歳以上』は「携帯電話（通話）」が最も高く、次に「固定電話（通話）」が高い理由となっている。『70歳未満』の年齢層では、「携帯電話（通話）」が最も高く、次に「携帯電話・パソコン・タブレットのメール」が高い理由となっている。

(注意) 県政サポーターアンケートはインターネットによる回答のため、インターネット等を活用する確認手段（「web171」「メール」）の回答差は、年齢層別ではそれほどみられなかった。

(問3—年齢層別)

	(n=3)	(n=90)	(n=316)	(n=519)	(n=414)	(n=381)	(n=312)	(n=2,035)
	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体
「災害用伝言ダイヤル171」	33.3%	25.6%	37.7%	33.1%	29.2%	36.7%	32.1%	33.2%
「災害用伝言板 web171」	0.0%	22.2%	21.8%	16.8%	16.7%	22.0%	16.0%	18.6%
携帯電話各社が提供する「災害用伝言板」	33.3%	25.6%	29.1%	33.5%	30.4%	31.0%	33.7%	31.4%
携帯電話各社が提供する「災害用音声お届けサービス」	0.0%	8.9%	14.9%	16.8%	14.3%	11.0%	9.0%	13.3%
携帯電話・パソコン・タブレットのメール	33.3%	47.8%	44.0%	41.8%	42.0%	46.7%	50.6%	44.7%
ソーシャルネットワーキングサービス (facebook や Twitter、LINE など)	66.7%	42.2%	28.2%	21.4%	19.8%	10.5%	2.9%	18.2%
携帯電話(通話)	33.3%	55.6%	55.7%	54.5%	46.4%	58.0%	69.6%	56.0%
固定電話(通話)	33.3%	26.7%	25.6%	33.1%	30.4%	37.0%	55.8%	35.3%
その他	33.3%	1.1%	3.5%	2.9%	2.2%	2.6%	1.9%	2.6%

災害用伝言サービスの体験利用

埼玉県では、首都直下地震の発生が懸念される中、「命を守る3つの自助の取組」を呼びかけるなど、減災に向けた県民の自助の取組を促進しています。

首都直下地震では、発災直後は、固定電話及び携帯電話で大量アクセスによる輻輳(ふくそう)が生じ、音声通話の9割が規制され、携帯電話のメールは使用できるものの大幅な遅配が発生する可能性があると考えられます。(※) また、特に日中に災害が起こった場合、家族が別々の場所で被災することも考えられます。

災害時の安否確認手段としては、「災害用伝言サービス」を活用することが有効です。あらかじめ家族で連絡方法を決めておき、日ごろから体験しておきましょう。

◆災害用伝言サービス

- 災害用伝言ダイヤル「171」(NTT東日本提供)
- 災害用伝言板(携帯電話各社提供)
- 災害用伝言板web171(NTT東日本提供)
- 災害用音声お届けサービス(携帯電話各社提供)

◆災害用伝言サービスの体験利用日

- 毎月1日、15日
- 正月三が日
- 防災週間(8月30日～9月5日)
- 防災とボランティア週間(1月15日～21日)

危機管理課ホームページ(<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/bousaitaisaku/saigaiyoudengon.html>)においても情報を提供しています。

(※)は、「首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告) /平成25年12月 中央防災会議首都直下地震対策検討ワーキンググループ」を参考としました。